萩之茶屋地域 ひと・まち・いきいきリカバリー事業 評価報告書

法人/事業のビジョン

大阪市西成区萩之茶屋地域(通称・釜ヶ崎、あいりん地区)には、かねてより困窮状態にある人が集住していました。明治末から木賃宿が集まり、太平洋戦争で焦土となり、戦後はバラック建てが密集し、貧困層が集まる地域になりましたが、1960年代までは萩之茶屋地域の貧困に対する民生対策はほぼ存在していませんでした。日雇労働者を中心とした不安定就労、未就学児童、医療支援の不足、劣悪な居住環境等の問題が累積し、高度経済成長期に地域で暴動が多発するようになってようやく、国・府・市による労働対策・民生対策が行われるようになりました。そして当時青空求人だった日雇労働市場(寄り場)を、「あいりん総合センター」として公設で大規模な施設を設置することを中心施策とし、地域全体が、単身男性の日雇労働者が集住して生活する地域へと再編されていきました。

その帰結は、0.62 kmのエリアに2万人以上の単身男性日雇労働者が生活する特異な地域の形成、そして1991年のバブル経済の崩壊後、建設・土木業界における重層的下請構造の最末端である日雇労働者は真っ先に失業、野宿を余儀なくされました。大阪府域の公園でブルーシートのテント小屋を作り自活をする野宿生活者がそこかしこで見られるようになり、萩之茶屋地域の失業・野宿問題が社会化されました。

こうした状況のなか、わたしたち特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構は、「ホームレス問題は雇用の問題」であるとして「はたらいて、安心して生活できる釜ヶ崎」を目指し、ボトムアップで仕事を作り、国に働きかけ法制度を作ってきました。設立から 24 年間、一貫して野宿生活者と野宿に至るおそれのある人々の社会的処遇の改善活動及びその自立支援が図られるような地域の形成に関する事業を行っています。



地域では、ひとりで生きてきた自負をもつ人と多く出会います。ひとりを選び、ひとりで生 きてきた過去には差別や暴力、背景には非摘出子、児童養護施設育ち、被差別部落出身、在日 コリアン等の外国ルーツ、性的マイノリティであること、心や身体に障害をもつ人などそれぞ れ複雑な事情と複層的な困難があります。刑務所を出所した人や依存症当事者、また家族やパ ートナーとの離別や、諸般の事情で地縁・血縁を絶って生きる人らも地域でともに生活者とし て暮らしています。過去を問わないという暗黙知が地域の不文律となり、炊き出しやシェルタ 一、ホームレス状態でも利用しやすい居場所を提供する施設が多く、生活困窮者を支援する団 体の多い萩之茶屋地域には、生きづらさを抱える人びとを受けとめる機能があります。ひとり (単身) でも貧しくても生きられる地域があることで、都市大阪がより過酷な状況に陥らずに 済んでいると言えるでしょう。しかし、萩之茶屋地域にやってきた生きづらさを抱えた人たち は、その複層的な困難が社会的に未だ許容されておらず、またマイノリティであればあるほど に、地域に暫住の段階を越え定着することが難しくなります。地域への定着支援は、介護支援 や障害・福祉サービスによってはかられていますが、若い世代や障害のボーダー域にある人は 「支援」を受けられずに孤立状態にあります。支援を受ける側ではなく、支援をする側として、 地域のプレイヤーになってもらいたい。地域社会のめざすべきありようとしての切実さもあり ます。そうした課題の解決には、地域の側が、マイノリティの居場所を多層的に備え、グルー プ(仲間)の形成を促進し、マイノリティの意見に耳を傾けることができるようなダイバシテ ィを実現していくことが必要になるでしょう。

こうしたビジョンが、「萩之茶屋地域ひと・まち・いきいきリカバリー~安全・安心のコミュニティ・ダイバーシティの活性化」事業で目指す、中長期アウトカムの3つにつながっています。

本事業では、重要な成果が3つありました。1つは、当初関係性が0だった市営萩之茶屋住宅と当法人の関係構築に始まり、大阪市社会医療センターや西成区保健師、西成区社協、包括ケアセンターらとの協力体制のもとで百歳体操や清掃の実施、運営側には法人内の複数事業(若年層の就労支援事業や、高齢者の居場所づくり事業利)から利用者が参加したこと、さらにプログラムが地域に開かれて実施されました。2つめに、システム設計変更とコロナウイルスの感染拡大によって感染対策へのニーズの高まりから、あいりんシェルター入場システムへの登録及び、結核健診の受診率が利用者の100%になったこと。3つめに、居場所づくりの過程でLGBT 当事者が深く関わったことで、職員間、地域団体間のコミュニケーションの深まりがあった、さらにLGBT 当事者が当法人入職に至り、居場所運営において主体的に取組みました。さらに詳しいアウトプット・アウトカムは、以下に述べていきます。

1. 基本情報

(1) 実行団体名

特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構

(2) 実行団体事業名

萩之茶屋地域ひと・まち・いきいきリカバリー事業

(3) 資金分配団体名

一般財団法人 大阪府地域支援人権金融公社

(4) 資金分配団体事業名

ひと・まち・げんき助成

~公営住宅を含む地域で、民の互助・共助・ネットワークづくり~

(5) 事業の種類

草の根活動支援事業

(6) 実施期間

2020年4月1日~2023年3月31日

(7) 事業対象地域

大阪市西成区

2. 事業概要

事業	社会課題	対象	中長期アウトカム	短期アウトカム	活動	出口戦略
(1) 大阪市萩之茶屋 住宅を軸とした居場 所×相談支援×地域 医療の定着促進事業	立、医療支援	市営萩之茶屋住宅住民	市営萩之茶屋住宅と大阪社会医療センター、西成版サービスハブ構築運営事業並びに西成区高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業の利用者との交流を進め、一体的に社会的孤立の解消とつながりづくりの活性化。	大阪市営萩之茶屋第一・第二 住宅の住民を主とした地域住 民が参加し、健康促進への機運 が高まるとともに、地域住民同 士の交流が生まれる。	いきいき百歳体操教室の開催月1~4回、計27回)健康教室の開催いきいき健康麻雀教室の開催のまります。 はままま 日本	いきいき百歳体操や健康麻准を強要は、住民や地域をは、自民や地域の自治、自主運営に。 まるしのアンケートは自治会で引続き実施。
② 結核検診勧奨及び仕事情報シェア機能を備えたあいりんシェルター入場システム構築事業	ホームレス、結核対策、就労支援	あいりんシェル ター利用者	あいりんシェルターの利用者が、インセンティブにより、自然に定期的な結核健診を受ける方向へと進むとともに、就労に関する情報を受け取ることができるシステムの構築。	利用者が整理券配布の時間に並ばなくてよくなる。結核健設の受診歴を管理することで受診勧奨ができる。年齢に応じた就労及び就労訓練の情報を受け取ることができる。生活・医療の相談支援を受けることができる。	あいりんシェルターカードシステム登録相談会 結核健診受診勧奨 就労訓練情報の発信 新型コロナワクチン接種相 談会、早期接種会の実施	あいりんシェルター 入場システムは法人・ 内でメンテナンス・ 自主運営。今後はシ ステムを活用した地 域関連団体の生活・ 就労情報発信体制づ くり。
③)多様な生きづら さを抱えた当事者の 自助グループ・居場 所づくり支援事業	マイノリティ性ゆえの複層的な困難、社会的孤立	LGBT当事者·支援者、依存症当事者·支援者	多様な当事者の集まりによるグループミーティングの活性化、自助組織・居場所の持続を目ざすチャリティ・システムの構築。	多様な生きづらさを抱えた人が、自分を否定されない安心できる場所を持つことができる。	居場所 古民家) リノベー ション H P S N S の作成、発信 コミュニケーション研修実施 2 回) 居場所オープン企画開催	自助組織による居場 所の持続的な自主運 営。寄付等によって 活動運営を継続する ための仕組みづく り。

3. 事後評価実施概要

(1) 実施概要

- ①どんな変化をこの事業の重要なポイントとして設定し評価を実施したのか
- ・大阪市営萩之茶屋北住宅の住民と、地域の団体や行政、地域で活動するボランティア やさまざまなプレイヤーとのあいだで交流が生まれ、住宅の住民らが地域と新たな関 係性を構築した。
- ・いきいき百歳体操の定期開催や大阪市社会医療センター医師による健康教室の実施 により住民の健康促進への機運が高まった。
- ・あいりんシェルター入場システム構築に紐づいた結核健診勧奨によって、結核罹患 率の変化、地域の公衆衛生が向上した。
- ・多様な生きづらさを抱えた当事者の居場所づくりの過程で LGBT 当事者がキープレイヤーとして参画、そのことをきっかけに当法人に入職した。

②どんな調査で測定したのか※調査概要の記載の仕方は末ページ記載例参照

◎短期アウトカム①大阪市営萩之茶屋北住宅の1号館および2号館に住む住宅の住民を主とした地域住民が参加し、健康促進への機運が高まるとともに、地域住民同士の交流が生まれる。

1)調査方法

・アンケート調査(項目は添付資料 5.6.7 を参照)

2)調査実施時期

第1回:2021年6月30日~7月7日 第2回:2022年12月8日~12月20日

3)調査対象者

・事業の対象となった萩之茶屋住宅 1 号館・2 号館合計 81+第一住宅人のうち、2 号館全 43 世帯 81 人※18 歳以上に戸別配布。

回収者数は 2021 年度 57 人、2022 年度 36 人であった。

4)分析方法

• 単純集計

◎短期アウトカム②利用者が整理券配布の時間に並ばなくてよくなる。結核健診の受診歴を管理することで受診勧奨ができる。年齢に応じた就労及び就労訓練の情報を受け取ることができる。生活・医療の相談支援を受けることができる。の評価

1)調查方法

- ①アンケート調査(項目・結果は資料8を参照)
- ②訪問面接調査(半構造化面接)

2)調査実施時期

- ①2022年11月29日~12月4日
- ②2023年3月1日

3)調査対象者

- ①事業の対象となったあいりんシェルター利用者(調査実施期間中滞在)計 153 名中 123 名回答(回収率 82%)であった。
- ②西成区結核対策担当者

4)分析方法

- ①単純集計
- ②調査から得られたエピソードをロジックモデルの枠組みで分析した。

- (2) 実施体制(内部/外部、評価担当役割、氏名、団体・役職)
- ※(2)実施体制に記載した氏名・団体・役職についても公表される情報となりますのでご留意ください。

内部

アウトカム達成度、波及効果、事業の効率性、成功要因・課題、事業実施の妥当性

松本裕文(特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構・事務局長) 大塚義朝(特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構・就労支援事業部管理者) 松本渚(特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構・就労コーディネーター) 中井佳誉子(特定非営利活動法人釜ヶ崎支援機構・事務局職員)

外部(インタビュー)

- (1) 大阪市萩之茶屋住宅を軸とした居場所×相談支援×地域医療の定着促進事業 波及効果、事業の効率性、成功要因・課題、事業実施の妥当性 山田實(大阪市営萩之茶屋北住宅2号館自治会長)
- (2) 結核検診勧奨及び仕事情報シェア機能を備えたあいりんシェルター入場システム構築 事業

波及効果、事業の効率性、成功要因・課題、事業実施の妥当性

橋本泰一 (大阪市西成区保健福祉課保健担当課長代理)

坂本龍一(大阪市保健福祉課(結核対策)担当係長)

4. 事業の実績

4-1インプット(主要なものを記載)

※最新事業計画書のインプット欄から転記してください。

						経費実績	
			助成金の合計 (円)			1	自己資金(円)
	人材(主に活動していたメンバ ーの人数や役割など)	資機材 (主要なもの)	① 契約当 初の計画 金額	② 実際に 投入した 金額	① 契約 当初の 自己金 の計額	② 実際 に投た 自己のを 額数 類	③ 資金調達で 工夫した点
(1) 大阪 市萩之茶屋住 宅を軸とと と 居場 大 大 球 大 球 の 定 着 保 と 地 、 本 域 、 大 域 、 大 域 、 大 域 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は 、 は 、	○萩之茶屋第二住宅自治会役員 2名(住民集会でのプログラム 開催の発議、プログラムの運 営) ○地域医療機関事務局職員2名 (講話や血管年齢測定等、なっての の地域ボランティアスタッで 名(百歳体操指導、囲場) ○西成区職員1名(百歳体操企 画サポート) ○西成区社会福祉協議会2名 (プログラム参加者の相談対応) ○釜ヶ崎支援機構本事業担当者3名(プログラムを る名(プログラム実営補助、広 数等)	○AV機器ピーカー等のWEB配信機器ピーカー等のWEB配信機器ピーカー等配信機器:PC、対力の体が対象ができる。 のは、	2,445,000 円	2,426,979 円	0円	0円	資金調達該当なし
(2) 結核 健診勧奨報 中機能の たあいタム 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの 大きの	○釜ヶ崎支援機構システム担当 者1名(内政でのシェルターシステム開発) ○カード作成時相談・カード作成 成14名 内訳:釜ヶ崎文ティアスタ製ディアス4名(2000年) 受診制奨、作成系和リックは、2000年) で成り、1000年) で成り、1000年) では、200	OPC ○カードリーダー ○タッチパネル	1,501,500 円	2,221,048 円	275,000円	375,000 円	事業開始前の弊機構の予算規模は9 億円程度だったが、収入のほとん どが行政対象の金託事業費にありり、自己資金に活態であった。そのよう中、シェルターシステム開発の目的ののために、態が労支援強化のために、居住支援・就労支援援一体型の支援の仕組みそつくる為機ではあるで表したができたした。
(3) 多様 な生きづらら を抱えた当事 者の自居場場 一プくり支援事 業	○ 居場所づくり支援・イベント企画 5名 内訳:釜ヶ崎支援機構代表者1名 有志職員2名(内1名はLGBTQの当事者)本事業担当者2名	○居場所改装用建築等資材 ○居場所用机、椅子、PC	2,503,500 円	1,872,913 円	0円	0円	資金調達該当なし

4-2活動とアウトプットの実績

(1) 主な活動

事業	アウトプット	指標	初期値	目標値	目標達成時期 (事業計画書 に記載した時 期)	実績値
				いきいき百歳体操初 回開催	令和 2 年 6 月	令和3年11月 から計25回開 催
(1) 大阪市萩之				健康教室の初回開催	令和2年7月	令和 4 年 10 月
茶屋住宅を軸とし た居場所×相談支 援×地域医療の定	地域と医療をつな ぐ居場所・相談窓 口ができる	実施検討会 議での諮問	なし	健康麻雀プログラム の初回開催	令和2年8月	令和5年1月
である。 着促進事業	UN C & S			ほっこり体操&カフェの初回開催	令和2年9月	令和3年4月※ いきいき百歳体 操&カフェとし て開催
(2) 結核検診勧 奨及び仕事情報シェア機能を備えた あいりんシェルム ラー入場システム構 築事業	結核健診を勧奨し 就労意欲を助長す る強力なツールを 開発し実装する	シ築諮 大局ス 課結当で シウスメでス会間 阪ホ自、核との スンクンの スから ストロック スタ で シウスメで が は し 援区担会 ダリジ議	なし	ツールを実装し運用する	令和3年2月	令かカと運い勧援情スロ策めで結接状厚等を名かりと運い勧援情スロ策めで結接状厚等を12シドて。結、生提て感活程発、希の触絶揮年ェシツ計核就活供、染用ををワ望管者大年ルスー画健労支に新予す前進クや理のなりでは、発展をである。のラコ対たしたン種濃定果月ームをてののラコ対たしたン種濃定果
(3) 多様な生き づらさを抱えた当 事者の自助グルー	多様な生きづらさ を抱えた人が集ま	居場所こし らえおしゃ	なし	居場所こしらえおし ゃべり会の 初回開催 グループミーティン	令和 2 年 5 月	令和5年3月
プ・居場所づくり	れる居場所ができ る。	べり会での 諮問	なし	グの初回開催	月	令和5年3月
支援事業	· · · · · ·	ᄪᄞ		ぐるぐる交流会議初	令和 2 年 10	令和3年2月、

「東田ろ一じ」※(3)多様な生きづらさを抱えた当事者の自助グループ・居場所づくり支援事業

HP 開設

https://www.rohji-r.org/

SNS 開設

Instagram https://www.instagram.com/rohji_higashida/

Faceboook ページ https://www.facebook.com/Rohji4U

Twitter https://twitter.com/rohji_higashida
YouTube https://www.youtube.com/@user-fg8vv2fb3e

4-3外部との連携の実績

大阪市営萩之茶屋北住宅を軸とした居場所×相談支援×地域医療の定着促進事業では、社会福祉法人大阪社会医療センター、大阪市西成区役所福祉課、大阪市西成区保健福祉センター、社会福祉法人大阪市西成区社会福祉協議会、西成区地域包括支援センター、そして西成区単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業および西成版サービスハブ構築運営事業と協働して、大阪市営萩之茶屋北住宅2号館における集会所を会場に「いきいき百歳体操」を開催しました。「いきいき百歳体操」の運営スタッフとして、西成版サービスハブ構築運営事業の利用者で、生活困窮や就労困難な若者が継続参加しました。また、大阪社会医療センター医師による健康教室も開催、開催時は会場の住宅集会所とあいりんシェルターとオンラインで繋ぎ放映しました。

結核検診勧奨及び仕事情報シェア機能を備えたあいりんシェルター入場システム構築事業では、大阪市福祉局ホームレス自立支援課、西成区保健福祉課等と協議をしながら進めてきました。自立支援課との協議で、現段階では更新期限なしですが、システム登録者が 1,000 人を超えたら利用者の個人情報管理における基準(一年間シェルターの利用がなかったら登録取消等、西成区役所との協議でシェルターに住民票を置く場合は一年間で消除になる)を定める形となっています。

多様な生きづらさを抱えた当事者の自助グループ・居場所づくり支援事業は、新型コロナウ イルスの感染拡大状況のため、運営に中心的に携わる人たち(通称:ろーじもんず)のミーテ ィングや当事者の自助グループ・居場所を開くことに困難がありました。そのような状況であ ったため、実際に開催される時までに、多様な生きづらさを抱えた人が、ためらいや気兼ねを することなく活用できる場所づくりをめざし、地域で活動する団体との打ち合わせを重ねまし た。その過程で LGBT 当事者らが主催し「ロカボを食べて HIV を知る会」(通称「HIV カフェ」) に参加するようになりました。居場所に出入りしてもアウティングにならない環境や広報のデ ザインについて、アドバイスを受けることができました。また、生きづらさの多様さゆえに、 マイクロ・アグレッションが蓄積されやすいということが想定されるため排他的にならないコ ミュニケーション方法について実地の練習を積んでいく必要性があるとわかりました。そこで、 令和3年2月、3月に当法人職員のコミュニケーション研修「釜ヶ崎でともに働く人のための分 かち合いの時間」を実施しました。「ロカボを食べて HIV を知る会」(通称「HIV カフェ」)よ り多様な生きづらさを抱えた当事者の自助グループ・居場所づくりの知恵をお借りしながら、 HIV カフェの参加者たちにも研修参加を呼びかけました。萩之茶屋地域内で LGBT ケアマネや看 護師として活躍する方々が参加。当法人は国・府・市・区の受託事業ごとに職場も異なり、と もすれば縦割りになりがちな環境にある中で、スタッフ同士の交流の場、スタッフと地域団体 との交流の場として活かされました。こうした活動の結果、地域で活動する7団体と当事者の 自助グループ・居場所づくりについて、協力関係を築くことができました。また、リノベーシ ョンについてはフリーヘルプの代表西本精五さんから内装に関するアドバイスをいただきまし た。

5. アウトカムの分析

5-1. アウトカムの達成度

(1)短期アウトカムの計画と実績

事業	短期アウトカ ム	指標	初期値/初期状態	目標値/目標状態	目標達成時期	アウトカム発現状 況(実績)	事前評価時の 短期アウトカム
		健康促進プログラム参加者数	なし	プログラ ムの参加 者が10 名以上 (麻雀 4名以 上)にな る	令和 4 年 3 月	令和 4 年 11 月 (麻雀は令和 5 年 1 月)に達成、計 2 5 回開催延べ 2 6 8 名が参加。	シェルター利用者 のみならず、大阪
(1) 大 茶屋第一 阪市萩之 二住宅の 茶屋住宅 二住宅の	大阪市営萩之 茶屋第一・第 二住宅の住民 を主とした地	茶屋第一・第 二住宅の住民		健康 大 は ま は よ ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま ま	令和 4 年 3 月	延べ参加中アンケ 6 6 80%の答案の答案の答案の答案の答案の答案を、したが 9 またい 10 には できまたい 10 には できまたい 10 にいる。	
を を を を を を を を を を を を を を	域住民が参加 し、健康促進 への機運が高 まるととも に、地域住民 同士の交流が	安全・安 ・マン・コーティン で 関する アンケート		なし	住民によ る自主運 営が図れ るように なる	令和 4 年 3 月	自治会総会にて将 来自治会主導の運 営を図れるように するということで 意見の一致を見 た。
美生まれる。	生まれる。	アト評ピ抽アグー性エドヒン		住っ康よつ居でにの進人が所る。		初まなとに違いいいた膝がれているが、というにながから、と手な百加ぶというでも、とまな百加ぶというでも、というでは、出と声立た操こよ担葉ががっう後、体たとう言いがが、ないないの。	

	利用用者が整理間では、 を建立した。 を建立した。 を建立した。 を建立した。 を建立した。 を建立した。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を是。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表示し。 を表。 を表。 を表。 を表。 を表。 を。 を。 を。 を、 を、 を。 を。 を、 を、 を、 を、 を。 を。 と。 を。 と。 を。 と。 と。 を。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。 と。		システム の利用登 録者数	なし	シス ス 利 者 日 者 の の は る も り は に な る も に な る も は に な る も に な る ら し に な る ら し に な る ら し に な る ら し に な る ら る ら は に な る ら る る る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る ら る る る る る る る る る る る る る	令和 4 年 3 月	2020年11月28日 2023年2月28日 2023年2月28日 2月28日 2	
(2)結 核検診勧		券配布の時間 に並ばなくて よくなる。結	測定不可	結核受計 が1 利用 4/5 以る	令和 4 年 3 月	設計変更を行い、 あいりんシェルタ 一利用者に半年毎 の結核利用を義務 付けたために受診 者は 100%となっ ている状況。		
奨事ェをあシース築が報機えりル場ム業化シ能たんタシ構業	歴こ奨年就訓受が活談る管ででに及の取き医援とるででに及の取き医援とる理受き応び情るる療をが。理うきので就報こ。の受でものが、は、ののででは、ないのでは、おいのでは、おいのでは、おいのでは、おいのでは、	就労相談者数	①き座②マ(よミ会回い清:14仕チ業求説:い講名事に人明の	就部談るが以る 対門を利月上 を利月を はで受用 5 に	令和 4 年 3 月	就望97利月間①座のの支で共業のた②期4シ告の名労談テ案たま頑よせ労者名用28。きる男が変を都設や労・仕中5テをが決者ム内結っ張。らけまるいと3日 清26法就えや管社っ チ令月開結内ににシ明加が地が出ている名がでは、施務就、お間年ス知名が決者ム内結っ張。らよれ、3日 は、3日 は、4日 は、4日 は、5日 は、6日 は、6日 は、6日 は、7日 は、7日 は、7日 は、7日 は、7日 は、7日 は、7日 は、7	登録者の結核検診。受録者の名様を診察の各様を対している。では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、では、で	

		アンケー 評価 ピカー と カー・ アンケー は カー・ アンカー アンカー アンカー・ アンカー・ アンカー・ アンカー・ アンカー・ アンカー・ アンケー・ アン	なし	コロナワクチンを種上		事い口種たェック種た応NPOとますが、のでた者ま回っいたのでよる財子ともによる感」言いたが、NPOには、のでた者はいったのではないができる。たいのでた者はいいたのでは、のでなる。のでなる。のでなる。のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、			
		プログラ ム・グル ープへの 参加者数		プログラ ム・プのが 5 加者 以上に なる	令和 4 年 3 月	令和5年3月に実施した3つのプログラムの参加者はいずれも5名以上			
		プログラ ム・グル ープへの 定着率	なし	なし		利用者の 定着率が 50%以上 になる	令和 4 年 3 月	プログラムやグル ープへの定着は今 後継続時の課題	
(3)多	タギャルキベ	ホームペ ージのア クセス数 統計			アクセス 数が 1000 を 超えるよ うになる	令和 4 年 3 月	統計ソフトを入れ ておらず算出不 可、今後導入予定		
づらさを 抱えた当 事者の自 助グルー	抱えた当 人が、自分を 事者の自 否定されない	SNS に よるリツ イート数 統計			リツイー ト統計が 100 を超 えるよう になる	令和 4 年 3	リツイート統計 21	多様な生きづらさ を抱えた人が、自 分を否定されない 安心できる場所・ 当事者グループを	
所づくり		エンゲー ジメント 率統計		エンゲー ジメント 率が 10%以上 になる	令和 4 年 3 月	Twitter のエンゲ ージメント率: 2 0 2 2 年 8 月 に 1 0 %以上になる。	持つ。		
		フォロワ ー数統計		フォロワ 一数が 50 を超 えるよう になる	令和 4 年 3 月	総 SNS フォロワー 数は 132			
		寄付金金額集計		寄付金額 が 23 万 円以上に なる	令和 4 年 3 月	2022 年度の法人寄付合計 2,615,022円(2023年1月末現在)※事業との紐づけはできていない			

(2) アウトカム達成度についての評価

(1) 大阪市営萩之茶屋北住宅を軸とした居場所×相談支援×地域医療の定着促進事業

2021 年、本事業の対象者が暮らす大阪市営萩之茶屋北住宅の 1 号館および 2 号館が完成しましたが、本住宅は釜ヶ崎独特の歴史的系譜を経て今に至っています。大阪市営萩之茶屋北住宅 1 号館(前身の名称は「大阪市営萩之茶屋第一住宅」)は、1970 年に政府が主導した「特別地区対策」として建設された「あいりん総合センター」の南側屋上に擁されていました。また 2 号館(前身の名称は「大阪市営萩之茶屋第二住宅」)は、上述のあいりん総合センターの東側に 1975 年に開設されました。大阪市営萩之茶屋第一および第二住宅に入居した多くの人びとは、あいりん総合センター建設予定地に居住してきたバラックの住民が中心でした。

大阪市営萩之茶屋第一および第二住宅の完成前は、貧困をともに経験する萩之茶屋地域住民として、日雇労働者との心理的隔たりは少なかったと考えられますが、市営住宅が完成した後は市営住宅の住民と、簡易宿泊所に居住する収入のある日雇労働者およびホームレス状態に陥った人びととのあいだで意識的な隔たりが広がっていきました。現在の市営住宅においては、高齢化が急速に進行しており健康が憂慮される単身者、また生活保護を受ける人や性的マイノリティの人など多様な背景や状況下にある人びとが、生活しています。本事業開始前は、市営住宅の住民間のトラブルが絶えず、また自治会に対する不信感が根強く、「住民間でまとまりのある交流は皆無」でした(自治会長の聞き取りより)。こうした住民のあいだの孤立状態が、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響を受けて、さらに深刻化しました。

2021 年 4 月、大阪市営萩之茶屋北住宅 2 号館の自治会が新しい体制を構築したことを皮切りに、住宅の住民同士の交流および健康の促進に積極的に取り組もうと、2 号館の集会所で「100 歳体操」を実施することが、2 号館自治会総会で承認されました。ようやく COVID-19 が落ち着いた頃の同年 11 月に本事業が開始しましたが、当初は住宅の住民の参加者のあいだで話をすることも少なく、また小さなトラブルもあり住宅の住民からの参加者が 2 名にまで低迷するなど、住宅の住民同士の交流を促進することは非常に困難に思われました。

しかしながら、継続的に 100 歳体操に参加した住民のなかに「体調がよくなった!」と述べる人が現れ、そのような住民らが自信を持って、他の住民を 100 歳体操へ誘うようになりました。そうした彼/彼女らの呼びかけが 1 号館の住宅住民にまで届き、1 号館の住宅からも参加者が現れるようになりました。やがて住宅の住民の参加者たちから「100 歳体操をもっと定期的に行いたい」と、100 歳体操のあり方について積極的に発言するようになります。こうした声を受け 100 歳体操は、月1回から複数回の開催へと拡大していき、体操後に催した参加者のお誕生日会やクリスマス会などのなかでコーヒーを交えたおしゃべりで交流を深めながら、合計 25 回の定期開催、延べ 268 名の参加が実現しました。

このような 100 歳体操の活動を基盤に住民同士のつながりが形成されるなかで、地域の「萩之茶屋文化祭」における催し物「いきいき盆踊り」を企画・開催(同住宅1号館および2号館のあいだの駐車スペースにて)、健康教室(大阪社会医療センターと連携し)開催、2号館住宅の清掃活動(住宅住民と若年ボランティアによるもので月1回実施)、認知症予防健康麻雀教室(住宅と地域住民が参加し、月2回開催)、「地域内お出かけ」サークル(不定期)など、住宅と地域住民や団体との交流が促進される活動が生まれています。

本事業は、住宅の自治会および住民を基軸に、社会福祉法人大阪社会医療センター、大阪市西成区役所福祉課、大阪市西成区保健福祉センター、社会福祉法人大阪市西成区社会福祉協議会、西成区地域包括支援センター、そして西成区単身高齢生活保護受給者の社会的つながりづくり事業および西成版サービスハブ構築運営事業と連携し実施しています。それぞれの連携団体とは医療相談、交流促進のためのリクリエーションの企画・実施、地域の福祉資源の情報提供や相談など、多義にわたる役割を調整し、参加者が安心して交流や健康を促進できる場になるよう努めています。当初は、住宅住民のなかに上述の連携団体に対する警戒感も見られました。特に大阪社会医療センターのスタッフが行う血圧や血管年齢測定において住民のなかには頑なに拒む人もいましたが、いまでは当センターのスタッフ(も「100歳体操に参加したい!」)と顔なじみにもなり交流を深めていくうちに測定に積極的に参加して自身の健康意識を高めており、さらには住宅の住民を当センターへ紹介する動きなども見られるようになっています。

大阪市営萩之茶屋北住宅 2 号館の住民 43 世帯を対象に実施した「暮らしのアンケート」 (事業開始前に実施した「第一回目」では回収率 74%、事業実施中の「第二回目」では回 収率 53%) によると、「現在お住まいの地域での生活で困っていることはありますか」と いう質問に(該当する答えに対し複数回答可)、「第一回目」では「住民同士の交流や協力 体制がないこと」、「近所づきあいがないこと」、「近所に誰が住んでいるか分からないこ と」、「空家・空室が増加し、防犯上の不安があること」を選択した住民がそれぞれの回答 において 10 名以上いたのに対し、「第二回目」ではいずれの回答においても 5 名以下に減 少しました。また「悩みや困ったことがあった場合、誰に相談しますか」の質問について (該当する答えに対し複数回答可)、「第一回目」では「家族、親せき」(40名)および 「友人・知人」(約 25 名)の回答が大半を占め、「誰もいない」と回答した住民もいまし たが、「第二回目」では「家族、親せき」(約20名)および「友人・知人」(約15名)が 減少し、代わりに「自治会」、「社会福祉協議会」、「民生委員・児童委員」、「専門の相 談機関」と回答した人が増加して多様な回答が見られるようになり、「誰もいない」がゼロ になりました。また「現在のお住まいの地域に住み続けたいですか」の質問に対し、「住み 続けたい」と回答した住民が「第一回目」と比較し、「第二回目」では 14 ポイント上昇 (69%から 83%へ)、また「わからない」と回答した人は 14 ポイント下降(31%から 17%へ) し、本事業を開始してから住宅の住民のあいだで萩之茶屋地域に対する「安心」や「安全」 の意識が一定に向上していることが確認できます。

本事業を運営するなかで担当者がとりわけ苦労したのは、活動においていかにして住宅の住民に「楽しく」、そして「継続的に」参加してもらいながら、心身の「健康を維持/促進」し、「主体的」に地域の人びとと「良好な関係性」や「つながり」を形づくるかという点でした。それらを実現するにあたって、担当者は住宅の住民の持つ潜在能力を信じ、常に参加者にコミュニケーションをとり、住民たちの歩幅に合わせたプログラムの発展を心掛けたこと、また担当者自身も自治会や住民、関係団体のスタッフ、そして釜ヶ崎支援機構の上司や同僚に力添えを頂いたことが本事業の発展に至っていると考えています。同時に本事業で明らかになったのは、本事業に参加が可能な「比較的健康状態が良好な」「高齢者」が中心であったことから、今後は寝たきりの住民をはじめ、集会所ですら足を運ぶことが困難な人や若者・稼働層も包摂できる大規模なイベントやテクノロジーも利用したさまざまな活動を創出することが重要であると考えています。COVID-19 の実質的な落ち着きを見せる 2023 年度からは、上述の実現に向けて本事業をさらに発展させていきたいと思います。

【萩之茶屋住宅住民の声】

A さん (100 歳体操に参加する市営住宅の住民)

「(腰を悪くして踊り教室に通えなくなりその代わりに百歳体操に参加するようになったところ)回って踊れるようになった!」

と参加者の励ましをもらいながら体操を続けてきた成果を参加者とともに喜ぶ姿が見られま した。

(2) 結核検診勧奨及び仕事情報シェア機能を備えたあいりんシェルター入場システム構築事業

あいりんシェルターは、失業などからホームレス状態になった人びとがシェルターを利用するための列に並び「整理券」を入手すれば、「誰も」が「屋根の下」で眠ることができる大切な包摂機能を担ってきました。しかし、このような緩やかな仕組みのために利用者個々に対応した効果的な支援を提供することが難しく、利用者のなかには孤立してしまう人もいました。こうした状況を改善するため、シェルター利用者一人ひとりと面接を行い、利用者全員に「シェルター利用カード」を作成してそのカードを使用した独自のシステムを構築しました。

システム導入前は「整理券」の入手に真夏も雪の日も、ベッド券を取るために長い列に並んでいました(写真 1)。システム導入後は、財布に入れられるサイズのカードをタッチすれば、いつでも出入り可能になりました(写真 2)。





(写真1) (写真2)

コロナ禍の 2020 年 11 月にこのシステムの運用開始を実現できたことで、利用者一人ひとりに合わせた感染症予防の促進(結核健診受診率 100%達成、新型コロナワクチン接種の実施や濃

厚接触者等の特定)、職業訓練や求人説明会の案内などの就労支援につながりました。就労支援につきましては、システム運用前にはシェルターに寝泊まりされている方の個人情報の把握が皆無でしたので、利用者の相談は待ちの状態でした。システム運用に当たり、当初は月に5名を目標に弊機構の就労支援事業(相談)に繋ぐことを目標に掲げていましたが、結果事業開始前年度の2019年度の就労支援事業の新規登録者は139名でしたが、事業修了年度の2022年度は235名に増加しました。また単に相談だけではなく、多くの就労支援実績にも繋がりました。以下は就労支援実績の主だったものになります。

【就労支援実績】(2023/3/1 時点)

(1)いきいき清掃講座(ワーカーズコープと共催)

:システム導入後は担当の相談員からの推薦、地域内でのポスター掲示に加え、システムを使い受講者を募集

合計 16 回開催 (内システム運用後 9 回開催)

参加申込者:システム運用前 83 名、システム運用後 78 名 (内シェルター利用者:システム運用前 14 名、システム運用後 26 名)

※26 名中 8 名が当法人の就労相談・就労支援を経たうえで、都市公園や公共施設の清掃管理業務や清掃会社への就労につながった。

いきいき清掃講座は 16 回目の開催となり、またコロナの影響もある中で参加希望者が縮小していたが、シェルター利用者の参加は横ばいに推移、一定の支援に繋がったことはシステムの成果だと考える。

②お仕事マッチ(企業による求人ミニ説明会)

コロナ感染拡大の影響で、期間中2回(令和4年5月、7月)システムにて開催告知を行った。 結果10名が参加、内3名が実施企業に就労決定。

③就労支援セミナー「アサーショントレーニング」実施(令和4年5月、12月)延べ参加者約90名

また、事業では予定していませんでしたが、あいりんシェルター入場システム導入により、 65歳以上のシェルター利用者が新型コロナワクチン接種を高齢者枠で早期に受けられるように なりました。システム実装前はシェルター利用者の個人情報や、シェルターベッド利用情報が 皆無でしたが、システム実装後、把握・管理ができるようになったことで、濃厚接触者の特定 や、ワクチン接種の支援、そのほか個別相談・連絡の際には本人と連絡が取りやすくなりまし た。

大阪市西成区保健福祉課保健担当者からは、以前は結核健診勧奨のために、定期的にあいりんシェルター内でスペースを借りて相談会形式で呼びかけたり、ベッド券の整列のタイミングに合わせてシェルター前に結核健診車を設置したりしていたが、現在はシェルター入場システムに紐づいたためにアウトリーチの必要がなくなったこと、また半年に一度の結核健診受診によって結核罹患者の早期発見が可能になったことが成果として挙げられました。結核罹患は発見が遅れると病状が重くなるだけでなく、排菌が始まり周囲の人に感染するリスクが高まります。早期段階、排菌前に発見されること、また既に排菌が始まってしまっていても、ベッド位置の特定ができるため、濃厚接触者(罹患可能性が高く結核健診の受診が必要な人たち)を最小限の単位で特定、結果としてあいりんシェルター全体の機能を止めることなく、対応できるようになったことはすばらしいことであると、評価されました。

【あいりんシェルター利用者の声】

Βさん

「昔は大雨の日でも、ベッド券を取るために長い列を並んだが、今は本当に便利になった。ありがとう。」(70代男性)

Cさん

「システムの求人説明会案内をみて参加した結果、採用が決まった。新天地でがんばってみるよ。」(50 代男性)

Dさん

「おかげさまでワクチン 4 回接種させてもらった。きめ細かい対応をしてくれた NPO スタッフのみなさんに感謝しています。」(60 代男性)

(3) 多様な生きづらさを抱えた当事者の自助グループ・居場所づくり支援事業

萩之茶屋地域には、性的マイノリティや依存症など様々な生きづらさを抱え、辿り着いた人びとが多くいます。そうした人びとが自らの手で居場所(通称:東田ろーじ)をつくり上げ、共同で経営していく「都市型コモンズ」づくりに挑戦しました。当事者、またボランティアなどが集い、居場所の古民家リノベーションや HP の立上げに精力的に取り組むなかで、「自らの居場所を作っていく」という意欲が高まってきました。居場所のリノベーションには時間がかかり、ハコの完成が 2023 年 3 月となったため、当初目標のグループミーティングの初回開催などは遅れが生じましたが、リノベーションの作業を一緒にやりながら、いろんな話しをし、話さなくとも手を動かしていればそこにいられるという時間を通して、どんな居場所をつくりたいかというビジョンが共有されました。

なぜ短期/中長期アウトカムで目指してたところまで達成できなかったかについては、コロナ 禍の状況が厳しく、何か動こうと思ったら規制が出たり、スペースが狭く、密になりやすい状 況だったため作業が伸びたことが大きく影響しました。しかしながら水面下で話し合い、構想 は練っており、地域内の LGBT ケアマネ事務所であるにじいろ家族さんと 4 回程度打合せをして、アウティングにならない居場所づくりについて話し合いました。あえて LGBT フレンドリー的な 打ちだし方をせずに、多様な取組の中のひとつとなるよう、でもなにかしらフレンドリーなと ころは少しにじみでるみたいな方向性をとっていくことが定まりました。西成区高齢生活保護 受給者の社会的つながりづくり事業であるひと花センターが今後廃止になっていく中で、太子 エリアで高齢者が寄れる場所の確保をどうするかというところで、東田ろーじを活用する方法 について、ひと花センターのスタッフと打合せしました。その結果、こけら落とし企画には、 LGBT 当事者もそうでない人も、ひと花センターのスタッフらも一堂に会し、今後の場の運営を 一緒に進めていく形が見えてきました。

5-2. 波及効果 (想定外、波及的・副次的効果)

(1) 大阪市萩之茶屋住宅を軸とした居場所×相談支援×地域医療の定着促進事業

「いきいき百歳体操」開催初回に、住民の方から「何か役割はない?」とスタッフへ声かけがあり、役割によって参加意義や意欲が高まることを意識するようになりました。当法人スタッフが場の設営などはするものの、自治会や住民からプログラムの管理者などと誤って解釈されないような姿勢、言動には気を付けました。

当初 2021 年 12 月頃は住民同士の挨拶や会話、交流が見られなかったが、百歳体操で月に数

回顔を合わせ、体操後に輪になって団欒、珈琲やお菓子を交えておしゃべりをするようになると、困りごと(自転車へのいたずらにより転倒、ろっ骨を折る大けが)、単身者の悩みの深刻性(右半身のマヒ→便秘で何度か救急搬送)を聞くようになり、住民同士でのサポート体制を考える機会を持ちました。また、住民の要望から2号館住宅の清掃活動を定期開催。サービスハブ西成と連携して(利用者が有償ボランティアで4名参加)実施しました。

住民のひとりが「百歳体操の旗を作ろうよ!」と声かけ、「百歳体操」の旗づくりを参加者で合作。入口付近に設置したことで、旗を見て、萩之茶屋住宅1号館からも初めての参加がありました。市営住宅住民への健康促進PGの認知度の高さが伺える出来事となりました。

住民の要望で、体操後に参加者全員が輪になって炭坑節を踊った回では、炭坑節を踊り終えた後、仲違いをしていた A さんと B さんが盆踊りをテーマに話しはじめ、B さんがうれしそうにされていたことが印象的でした。A さんと B さんが打ち解けて以来、ふたりのあいだが温和になり、B さんが次回の掃除に使うためのホースを準備、お持ちいただいたこともありました。2023年2月の百歳体操後には A さんの 93歳のお誕生日会を開催。2号館自治会長が誕生日ケーキを買い、みんなでお祝いをした。すると、A さんが「みんなにお祝いしてもらって、、、」と、泣いてしまい、周りの皆さんが「よかったね」と、柔らかい空気に。お祝いに皆さんが残って下さり、円になってみんなでケーキを交えお話をして時を忘れるぐらいのよい時間が流れました。A さんは高齢かつ単身独居生活であり、百歳体操がつながりの場となっていることの表れと言えるでしょう。

体操には毎回社協から職員が来所したことでつながりができ、社協で取組んできた「ボッチャ」を萩之茶屋住宅でやってみたこともありました。大盛況でした。

いきいき健康麻雀教室は、西成区社協でも健康麻雀の実施を検討したいとのことで係長が来 訪、地域内で健康麻雀が広がりつつあります。

また、自治会長へのヒアリングから、住民の一人が大阪社会医療センターに入院したことが 明らかになりました。夫を亡くし単身で生活されていた方で、百歳体操等に参加され繋がりが できていたそう、プログラム実施以前だったら医療センターには行かなかっただろう方である とのこと、大阪社会医療センター的にも意義があったと言えます。

(2) 結核検診勧奨及び仕事情報シェア機能を備えたあいりんシェルター入場システム構築事業

当初は、あくまで結核の健診受診を勧奨するという計画でしたが、新型コロナウイルスの感染拡大の状況下、大阪市の要望あり、カードを作成する際に結核健診の受診を義務付ける形にシステム設計変更。その際に反発を覚悟していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大とも時期があい、利用者の間に感染防止意識が広がり、反論なく受け入れられたのは想定外の結果だった。受診率は100%となり地域の保健衛生上大いに寄与したと言えます。

結核検診が 100%受け入れられたという結果をきっかけに、新型コロナのワクチン接種についても大きな成果が上がった。カード保持者 893 名中、ワクチン接種支援希望者 286 名(接種券発行、接種予約、本人確認証発行、予診票記入、接種証明預かり等の支援を実施)。全体ワクチン接種者 322 名(支援の必要がなかった方:36 名)。

感染対策については、あいりんシェルター入場システムについてベッドの位置が特定できること(これまではなかった、だれがどこに)によって濃厚接触者の特定が容易になり、感染者が出た際にシェルター運用を全体的にストップすることなく最低限の濃厚接触者への支援ができました。ワクチンの接種支援に関しては、システム登録時に個人情報の管理体制が構築できた結果、ワクチンの接種情報の把握につながり、利用者のほとんどが接種支援を希望され、希望された方すべてが適切な支援を受け、複数回の接種につながりました。

また、当初計画していなかった「シェルター(カード)システムの評価アンケート」も実施 しました。計 153 名中 123 名が回答(回収率 82%)、システム導入によって便利になったとい う方が 87%、結核検診の受診状況を把握し必要な方に受診を呼び掛けたことで安心になったという方が 81%、システム導入の結果、新型コロナウイルスワクチンの接種の希望や接種履歴を記録し、希望者には円滑にワクチンに接種につながったことに対しては肯定的な評価が 76%でした。システムで求人案内をしたこと、それをきっかけに仕事が決まった方が複数人出たことについても肯定的な評価が 67%、ワクチン接種説明会や、衣類だし等の生活情報の提供については 70%の方が役に立ったと評価しました。

アンケート結果とは別件とはなりますが、想定外の波及効果が大きく2点出ました。1つは 新型コロナウイルス感染対策の強いツールとなりました。シェルター利用者の多くが新型コ ロナワクチン接種時に必要とされる「本人確認証」を持たない中、ワクチンの接種推進は、 当初困難を極めていました。このような中 2020 年 12 月よりのシステムの運用開始に伴い登 録カードが作成されて以降、大阪市福祉局と協議を重ね、結果ワクチン接種時の「本人確認 証」として、大阪市が管轄する集団接種会場及び、大阪市医師会が管轄する医療機関におい て、登録カードが「本人確認証」として使用できるようになりました。結果、利用者の多く が、ワクチン接種を円滑に行うことが出来ました。また、システムにより、過去に寝泊した ベッドの位置が特定できるようになったことで、感染者発生の際、濃厚接触者の特定がスム 一ズになり、システムがなければシェルターの一時閉所等の話になっていたかもしれず、多 くの利用者の方が路上に寝泊まりしなければいけない可能性も考えられますが、システムの 運用で、最小限(感染者:17人 濃厚接触認定者:0人)の措置をとることができました。 また、システム運用前は指定の時間にベッド券を取れば、名前を聞かれることもなく利用で きましたが、運用後は誰がいつどこのベッドで寝泊まりしているかを特定できるようになり ました。その結果、連絡を容易にとれるようになったことから、支援の過程において、時間 を必要とする相談がしやすくなりました。また、行政からの通知等の郵便物等も本人に届け やすくなりました。その中にはワクチン接種券や定額給付金等の通知書、公職選挙法におけ る選挙の投票券なども含まれており、利用者の行政サービスの利用や公民権の行使に留まら ず、ワクチン接種等で、地域の公衆衛生の向上にも多いに寄与したと考えています。ホーム レス状態等の理由により孤立しやすく情報を得にくい人たちが通過するあいりんシェルター のような一時生活支援を行う宿泊施設で、結核検診勧奨や個人に向けた仕事情報の提供がで きるようになったことは、不安定居住・不安定就労の人たちが出入りする都市の宿泊施設・ 居場所施設等において今後活用しうるモデルとなりえたと考えています。

(3) 多様な生きづらさを抱えた当事者の自助グループ・居場所づくり支援事業

LGBT 当事者 K さんが、居場所のリノベーション作業や、作業風景を配信した YouTube への出 演、当法人スタッフとのやりとりの中で、都市型コモンズ「東田ろ一じ」に興味をもたれ、居 場所の運営に主体的に参画、2022 年 9 月より当法人スタッフとして入職しました。入職後も多 様な生きづらさを抱えた人々の相談対応を重ね、2023年3月の居場所完成こけら落とし企画と して、K さんの「それぞれの中にしみこんだものがあり、その認識をとりもどすことを考えたい」 というアイディアから、日常生活のあらゆるところに潜む差別的経験(マイクロアグレッショ ン)についてのワークショップを開催するに至りました。3 月 13 日のヴィヴィアン佐藤さんを 迎えたおしゃべり会では、前日の別のイベントで作られたヘッドドレスを試しにかぶらせても らいながら、お話をしました。「考えていることの中身がせり出してくる」とヴィヴィアン佐 藤さんがおっしゃられるヘッドドレスのように、集まった人たちのそれぞれの中身がせりだし て居場所をつくっていくカラフルさ・たのしさについて考えてみることができました。パフォ 一マティブな東田ろ一じの居場所づくりというコンセプトに近づくことができました。とても 先端的な行動をしているヴィヴィアン佐藤さんの聞き方語り方が、時に排他性ともつながる評 価基準がないかほとんどない形式であることも、これからの居場所づくりにおけるコミュニケ ーションにおいて学んでいきたいものでした。3 月 15 日はゲストなしのおしゃべり会でしたが、 参加者がやってみたいことや居場所の空間構成についてアイデアを話し合うよい機会となりま した。3月16日は、ほんまなほさんを迎えてマイクロアグレッションについて学びました。マ イクロアグレッションについての学びは、これまで感じ方の違和感として少しずつ堆積してい

つのまにか大きくなってしまう痛みや痛みから生じる感情を、より細分化した繊細な視点で整理し考え方の拠り所を作る事に役立つとともに、マイクロアグレッションについて知ると、社会生活そのものが、多方向かつ複雑なマイクロアグレッションがより合わさって構成されてしまっているものであることもわかるので、居場所におけるコミュニケーションの形を開く潜んだ力があると感じながら、これからも学び続ける必要性があることがわかりました。(資料 9)

5-3. 事業の効率性 ※補足資料参照

大阪市営萩之茶屋北住宅を軸とした居場所 x 相談支援 x 地域医療の定着促進事業では、本事業開始前は当住宅と釜ヶ崎支援機構との関係性はなくゼロから関係性を構築していくこと、また住宅の住民のホームレスの人びとへの理解を促進することは困難に考えられました。しかしながら本事業開始後、「(身体の不自由などにより)住宅内の集会所なら参加できる」という住民の参加者から、「ホームレスの方へ差し上げてください」と、釜ヶ崎支援機構へ物資の寄付をしてくださる方が現れたり、住宅の住民と孤立していた性的マイノリティの住宅住民とのあいだでようやく良好な関係性を築き始めるなど、住宅の住民にとって身近な「集会所」における活動がこれまで包摂の網の目に陥りやすかった住宅の住民の存在や彼/彼女らが築き始めている住宅内や地域内への理解は、区役所などで実施される「100歳体操」とは異なる形態の事業の効率性があることを確認できます。

結核検診勧奨及び仕事情報シェア機能を備えたあいりんシェルター入場システム構築事業では、システム構築(プログラミング)を内製化したことで、想定より予算をかけずに計画以上のものが構築できました。外注していれば、250万以上は必要だったところ、当法人スタッフがシステム開発したことにより、約160万円で構築できたことは効率的だったと評価できます。

多様な生きづらさを抱えた当事者の自助グループ・居場所づくり支援事業では、短期/中長期アウトカムで目指していたところまでは達成できませんでした。なぜ達成が困難であったかは、複数の要因が考えられますが、特にコロナ禍での規制が大きく影響しました。居場所の完成が遅れたことについては、もし業者に頼んだ場合の工期は1週間程度、約100万で工事が可能でしたが、自らの手で居場所をつくり上げ、共同で経営していくプレイヤーになるというコンセプトに則り、壁紙はがしを地域住民延べ29人で行いました。結果的にその後主軸で関わることになった人々が、壁紙はがしの作業に参加しており、みんなで自作して作ったという点は場を知ってもらうという意味では効率性があったと考えられます。柱・壁・天井・床の全面塗装(ステン、補強含む)と防水、雨漏り工事は、地域の日雇労働者3名に就労機会として提供しました。コロナ禍の影響もあって十分な就労に結び付いていなかった現状でしたが、今回の雇用でそれが補完でき、住居の確保につながりました。

また、居場所づくり事業の立上げをきっかけに、当法人へ入職した人がいることは、他の就 労支援事業プログラムと遜色なく、結果的に就労支援以上に事業の効率性が高かったと言えま す。

6. 成功要因・課題

事業で達成した成果のうち、特に社会課題解決に貢献したアウトカムと、達成が困難であったアウトカム についてその要因や課題を記載してください。

大阪市萩之茶屋住宅を軸とした居場所×相談支援×地域医療の定着促進事業では、「いきいき 百歳体操&カフェ」を定期開催、約6人の住民が継続して参加しています。会の運営をサービ スハブ西成の若年の就労困難層の利用者たちが担っていることについては「若い子たちが来て くれてありがたい」との声が寄せられました。高齢化が問題となる住宅で、住宅だけでなく地 域諸団体との連携の中で課題解決を目指す道筋が見えてきました。また、住民の方から「何か 役割はない?」とスタッフへ声かけがあり、役割によって参加意義や意欲が高まることを意識 するようになりました。当法人スタッフが場の設営などはするものの、自治会や住民からプロ グラムの管理者などと誤って解釈されないような姿勢、言動には気を付けました。

健康教室で大阪社会医療センターの医師からなされた教室については、住民の声としては「難しすぎる」ということだったので今後続けていく際には、Q&Aやワークショップ方式などの工夫をしながら深めていきたいと思っています。

結核検診勧奨及び仕事情報シェア機能を備えたあいりんシェルター入場システム構築事業では、システム導入以前はベッド券を得るために長蛇の列に並ぶ必要があり、その日仕事に行っていた人は取れないこともありましたが、システムの構築によって利用者の利便性が格段に向上しました。また、結核罹患率の高い地域にて、結核健診受診率 100%を達成したことにより、地域住民の安心安全なダイバーシティが構築され、安心感につながりました。加えてコロナワクチン接種について、システム構築以前ではワクチン接種はほとんどの人が不可能でした。住民票がなく、誰が寝泊まりしているか分からない状況でしたが、システム構築によって、利用者の個人情報を同意のもと得られたことにより、ワクチン接種の支援がスムーズに進みました。そのことは、地域のコロナ感染予防、衛生学上の大いに影響したと言えます。就労相談について、システムを利用して「清掃講習」就労自立を見据えた技能講習の募集を実施。これまで低迷していた参加希望者が格段に増加しました。これらは利用者のニーズと社会のニーズが合致していたから、実現されたと考えます。

多様な生きづらさを抱えた当事者の自助グループ・居場所づくり支援事業では、居場所づくりのリノベーション段階から、萩之茶屋地域に関心のある人や地域の他団体の職員や高齢者の居場所事業利用者などに声かけをしたことで、結果的に多様な生きづらさを抱えた当事者どうしがともに作業する場が形成されました。ひとりの人の中にも複数の困難、その反面には強みがあります。一面だけでラベリングしてしまうのではなく、関係性のなかで、ひとりの中にある多様な面に気づくことができる仕掛けをつくり、居場所を運営していくこと、その具体は今後実践しながら考えていく予定です。

7. 結論

7-1事業実施のプロセスおよび事業成果の達成度の自己評価

	多くの改善の余地がある	想定した水準ま でに少し改善点 がある	想定した水準に あるが一部改善 点がある	想定した水準にある	想定した水準以 上にある
(1)事業実施 プロセス					0
(2)事業成果 の達成度					0

^{(1)、(2)}それぞれ1箇所を選択する。

8. 提言

大阪市営萩之茶屋北住宅を軸とした居場所×相談支援×地域医療の定着促進事業で開催したいきいき百歳体操をはじめとする諸活動については継続を望む声も多く、法人の自己資金と、50万円程度の助成金を潤滑油にしながら運営していく予定です。他地域の成功例からみても、町会や自治会という区切りでは越えられない困難を、企業や社会福祉法人、NPO法人などと一緒に運営することでインスパイアしていく流れになっている事例が多くみられます。先進事例を参考に、運営体制は、住民と自治会と共に、当法人や区社協などとの協働で進めるという形の自治を、萩之茶屋地域においても、模索していきたいと思っています。

結核検診勧奨及び仕事情報シェア機能を備えたあいりんシェルター入場システム構築事業では、内製化したシステム構築・メンテナンス体制によって、臨機応変に利用者のニーズに対応できています。あいりんシェルター事業の根拠となっているホームレスの自立の支援等に関する特別措置法の期限がまもなく 2027 年 8 月に迫っています。今後システム登録者が 1,000 人を超えたら利用者の個人情報管理における基準を定める流れとなっています。次年度からも 2 年間継続して大阪市福祉局から事業を受託することになったため、更新作業や抹消作業については法人内部でシステムの更新制度をつくり、定期更新のタイミングでヒアリング、相談につなげていくスキームを構築することで、さらなる隠れたニーズに応えていきたいと考えています。

多様な生きづらさを抱えた当事者の自助グループ・居場所づくり支援事業は、「東田ろーじ」としてオープン、今後は当事者同士で話し助け合ってマーケティング・広告スキルを磨き、貸室などの事業化も図りながら自主運営を目指します。ワーカーズコープ・コレクティブによる新しい働き方の模索も検討中。自分自身や仲間を承認し、生きづらさから回復できるような、発展させ、だれもが地域の当事者となり「いきいき」と暮らしていけるよう、斬新な発想をもっていくことを大切にしたいと思っています。

9. 知見 教訓

「あそこはホームレスの病院だから」と言われるような、ホームレス状態にある人と団地で 暮らす人の間にあった見えない壁が当初ありました。「いきいき百歳体操&カフェ」や「いき いき健康麻雀」で時間を分かち合うなかで、団地の住民と元ホームレス、生活保護受給者、高 齢者と若年層の就労困難層など、多様な背景をもつ人たちがひとりひとりとして出会うことで、 壁が溶け合うような時間が生まれていました。都市型コモンズ「東田ろーじ」においても、 LGBT 当事者や依存症当事者などがふらっと話せて、一緒にリノベ作業。場が開いたときにはど っちが支援する側で支援される側か分からない、人と人として出会ったり、出会い直しみたい なことが起こりうる、そんな偶然性も開かれていくのだと思います。そうした場が継続すると、 例えば「あの人は LGBT だから(自分たちとは)ちょっと違う」とは違う理解が開かれるでしょ う。今回は百歳体操や健康麻雀でしたが、ニーズに沿ったものを提供することで、実は共通し ていた趣味などからつながっていくこと、それはほかでもできることだと考えられます。 業の中でとりわけ特色として出ているのが、伴走スタイルで上下関係とかではない関係性をつ くるということがあげられます。かねてより萩之茶屋地域では、ともに生活・就労してきた 「仲間」という意識が強いことも影響しているかもしれません。だから、地域住民とホームレ スの人の壁をちょっと溶かしたり、多様な生きづらさを抱えた当事者が居てもいいと思えるよ うな場所になっていく。そういうスタイルで座組をつくる、ニーズをとらえ、それに沿った形 で届けてくことができます。

シェルター事業は法制度の枠内で受託する事業でありながら、今回「あいりんシェルター入場システム」として法人独自のシステムを作り出しました。他の地域にも存在する生活困窮者自立支援法の中に位置づけられている一時生活支援事業の中で言われるシェルターは、1ヶ月から3ヶ月程度一時的に宿泊場所を提供し、アセスメントをしながら自立の支援を行うものですがが、あいりんシェルターの場合は日雇労働者対策という行政による位置づけ上、全国で唯一の単泊型シェルターとなっています。日替わりで利用者が異なる、匿名性の高い施設などでは、今回のあいりんシェルター入場システム導入にあたっての課題や知見が汎用可能なものかもしれません。

あいりんシェルター入場システムでは、大阪市との協議の上で個人情報管理・保護の観点からも1年間利用がなかった場合登録を取り消す形を模索中です。こうした行政と管理チェック体制を作る過程も他地域での実践において参照可能かもしれません。

10. 資料 (別添)

12月日(木)年後2~3時

ミニ・クリスマス会

8

100歲体操。

萩之茶屋北住宅2号館



いきいき百歳体操は、いつまでも元気に楽しくすごすための体操です。 (コーヒーなどをご用意しておまちしております。)

※当日は新型コロナウイルス感染防止のため、マスク着用・手指消毒、検温のご協力をお願いいたします。
このプログラムは休眠預金を活用した事業です。
萩之茶屋北住宅

)

いきいき百歳体操のアンケート

このアンケートは、「いきいき百歳体操プログラム」を行うにあたって皆さまの健康についてのお考えなどを把握することで、今後のプログラムの企画などに活用してまいりたいと考えております。アンケートの質問でご回答がむずかしい項目がありましたら、なにも記入していただかなくて結構です。

☆あてはまる番号にO印を、または()に、おかきください☆

- A. 以下の質問におこたえください。
 - A1. あなたのおなまえをおしえてください。
 - A2. あなたの年齢をおしえてください。 () 歳
 - A3. ご自身の普段の体調をどのように感じていますか?
 - 1. 良い 2. やや良い 3. 普通 4. やや悪い 5. 悪い
- B.「いきいき百歳体操」にご参加された感想について、以下の質問に おこたえください。
 - B1. プログラムに参加され、ご体調やお気持ちに何らかの変化は ありましたか?
 - 1. よくなった気がする 2. 少しよくなった気がする 3. かわらない
 - 4. 少しわるくなった気がする 5. わるくなった気がする
 - B2. 本日のプログラムの内容について、全体的な感想をおきかせください。
 - 1. 満足している 2. 少し満足している 3. どちらでもない
 - 4. 少し満足していない 5. 満足していない
 - B3. 本日参加されて次回も参加してみたいとおもわれましたか?
 - 1. おもう
- 2. まだわからない
- 3. おもわない
- B4. 地域の人びとであつまり、交流することは必要だとおもいますか?
- 1. おもう
- 2. わからない
- 3. おもわない
- C. 健康促進プログラムの実施にあたり、そのほかご意見やご要望がありましたらご自由におかきください。

【記入欄】



2号館住宅のみなさま!

お盆のまえに 第2住宅と周辺の清掃 をおこないます!

ご参加いただけるかたは、 下記の日時と場所に お集まりください!

日時:7月30日(土)10時~

集合場所: 2号館住宅のゴミ置き場前



ご不明な点は、自治会長山田までご連絡ください。

※当日は新型コロナウイルス感染防止のため、マスク着用・手指消毒、検温のご協力をお願いいたします。

到到到

けんこうまーじゅん

きょうしつ

第三回

健康麻管劉宣

にちじ ねん がつ にち にち

日時:2023年1月22日(日)14:00~16:00

ばしょ しゅうかいしょ

場所:1F集会所

マージャンの先生が初歩から教えてくれます!マージャンをしたことがない人も楽しめます。

はんこうまーじゃん健康麻雀って?



賭けない、飲まない、吸わない を大原則に交流を目的とした 麻雀のことです

どんなメリットがある?

頭を使うことから脳トレになります ゆびさき うご にんちしょうよぼう 指先を動かして認知症予防になります



第1回はなにした?



しょかい あつ

かいそく

初回は集まったみなさんで会則や ラムネムi
運営のしかたについて話しあい、

連宮のしかにしついて話しめい、 かいさいび まいつきだい だい にちょうび

開催日は、毎月第2・第4日曜日 になりました

暮らしのアンケート調査

問1 あなたの年齢は? 歳) 問2 現在お住まいの地域に住み続けたいですか? 2. 引っ越したい 1. 住み続けたい 3. わからない 問3 問2で1.2.に○をした方にお聞きします。その理由は何ですか? () 問4 現在お住まいの地域での生活で困っていることはありますか?(あてはまるものすべてに○) 1. 近所に誰が住んでいるか分からないこと 2. 近所づきあいがないこと 3. 住民同士の交流や協力体制がないこと 4. 近くに医療機関がないこと 5. 仲間や友人と集まれる場所がないこと 6. 近くにスーパー等の商業施設がないこと 7. 空家・空室が増加し、防犯上の不安があること 8. 困った時の相談窓口がない、あるいはどこにあるかわからないこと 9. 特に困っていることはない 10. その他(具体的に 問5 よく利用している施設はありますか?(あてはまるものすべてに○) 1. 区民センター 2. 西成図書館 3. 西成労働福祉センター 6. デイサービスなど介護サービス 4. 西成市民館 5. ひと花センター 7. 西成区老人福祉センター 8. 天王寺公園・動物園 9. 西成スポーツセンター(プール) 10. その他(問6 現在お住まいの地域であるといいものはなんですか? (あてはまるものすべてに○) 1. 気軽に悩みを相談できるところはほしい 2. 話し相手がほしい 3. 保育所や学童保育など子どもを預けるサービスがほしい 4. 子どもの学習支援や子ども食堂など子どもを支援するサービスがほしい 5. 掃除や買い物、食事づくり等の日常生活の手伝いをする家事サービスがほしい 6. 室内の電球交換や修理などをしてほしい 7. 病院や買い物等への移動支援をしてほしい 8. 自宅への訪問医療・入浴支援をしてほしい 9. 時々見守りに来てくれたり、安否確認するサービスがほしい 10. 認知症になっても面倒を見てくれる仕組みやサービスがほしい 11. 高齢者や子どもの居場所がほしい 12. 特にない 13. その他(具体的に) 問7 近所の人とどの程度の付き合いがありますか? 2. 立ち話や世間話・情報交換をする程度 1. 困りごとを相談し合える程度 3. 顔を合わせた時にあいさつをする程度 4. 近所づきあいはしていない 5. 近所づきあいに関心はない **問8** もしもの時にかけつけてくれる人はいますか? 1. いる 2. いない 3. わからない 問9 普段、さびしいと感じることがありますか? 2. 感じない 1. 感じる

問10 孤独死(誰にも看取られずに亡くなること)を身近な問題だと感じますか?

2. 感じない

1. 感じる

	1. 健康である		2. どちらかといえば健康
	3. どちらかといえば健康でない		4. 健康でない
問12	健康のために自主的に運動に取り組	んでいますか。	
	1. 取り組んでいる	2. 取り組んでいない	
問13	健康のためにしてみたいことはあり		
	1. 体操		
		5. 医者に病院以外で気軽に質問したい	
		8. カラオケ	9. 卓球
	10. その他()
問14	現在、何か悩みや不安はありますか		- Marie I
	1. 生活(経済的な)のこと		3. 健康のこと
	4. 老後のこと		6. 子育てのこと
		8. 近所や人間関係のこと	9. 住宅のこと
	10. その他(具体的に)
	11. 特に不安や悩みはない。		
884 =		に担談しますか?(セアルキスナのすべて<)	,
回T2		に相談しますか?(あてはまるものすべて○) 	
	 大または妻、家族、親せき サウラルは禁令 		3. 近所の人
	4. 社会福祉協議会		6. 自治会
		8. 子育て支援センター	9. 学校の先生
	10. 民生委員・児童委員		12.専門の相談機関
	13. 利用している施設や病院 15. その他(具体的に	14.誰もいない	1
	15. 七沙他(吳体列と		,
問16	月に1度、集会所で百歳体操が実施る	されていますが、そのことであなたの健康状態	態はよくなりましたか?
1-3-2-0	1. よくなった	2. 変わらない	
	3. 悪くなった	4. 百歳体操には行っていない	
	3 · 18 · (3 · 2 / 2		
問17	月に1度、集会所で百歳体操が実施る	されていますが、そのことで近所の人や住民同	引士での交流は増えましたか。
	1. 増えた	2. 増えていない	
問18	ご自身の「暮らし」をどのように感	じておられますか。困っていること、悩んで	いること、充実していることなど、
	どのようなことでもいいですので、	下記に自由にご記入ください。	

問11 日頃の健康状態はいかがですか?

これでアンケートは終わりです。回答ありがとうございました。

令和3年 萩之茶屋北住宅2号館 「暮らしのアンケート」集計結果

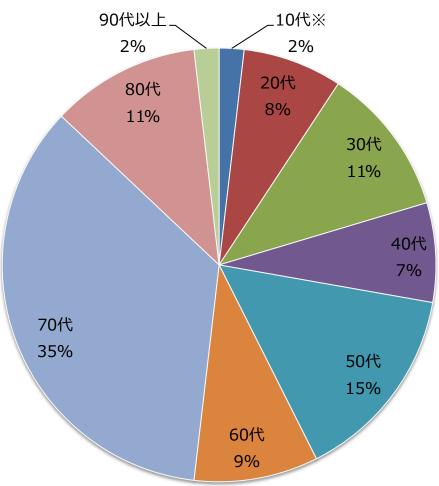
実施期間:2021年6月30日~7月7日

実施内容:アンケート調査(全15問)

回答数:43世帯中、32世帯57人が回答

※18歳以上に配布

問1 あなたの年齢は?



※ただし、18歳以上

問2 現在お住まいの地域に 住み続けたいですか?

3.わからない 31% 1.住み続け たい **2**.引っ越した 69% L1 0%

問3 問2の理由は何ですか?

- ・便利がいい。/交通の便が良い/ 駅が近く 計10名
- ・住みなれた土地/自分が育った地域

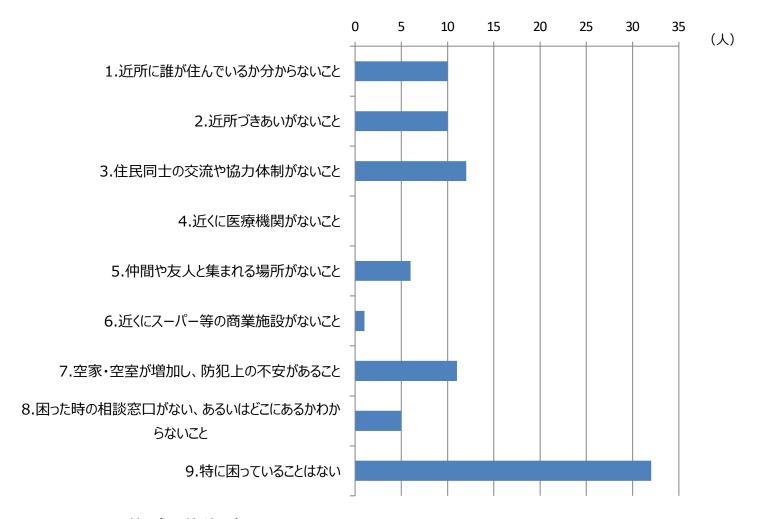
計11名

- ・引っ越しが面倒だから 計4名
- 新築だから 計3名
- ・年だからこのままで良い 計2名

その他

おもしろい街だから

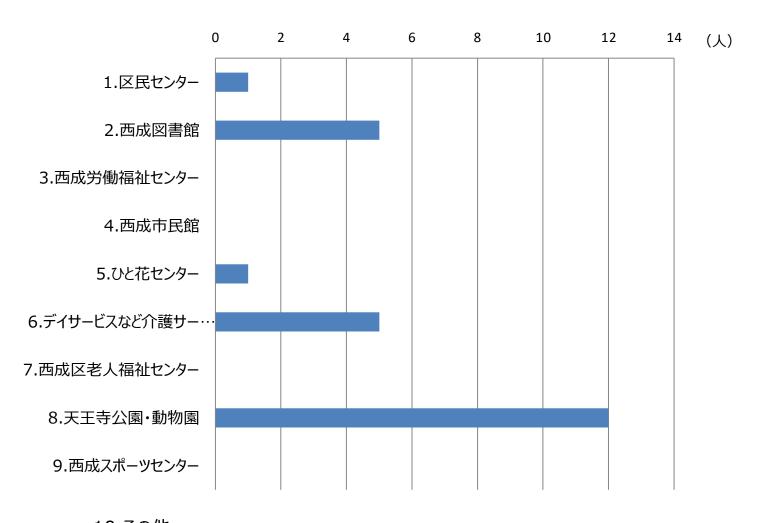
問4 生活で困っていることはありますか?



<u>10.その他(具体的に)</u>

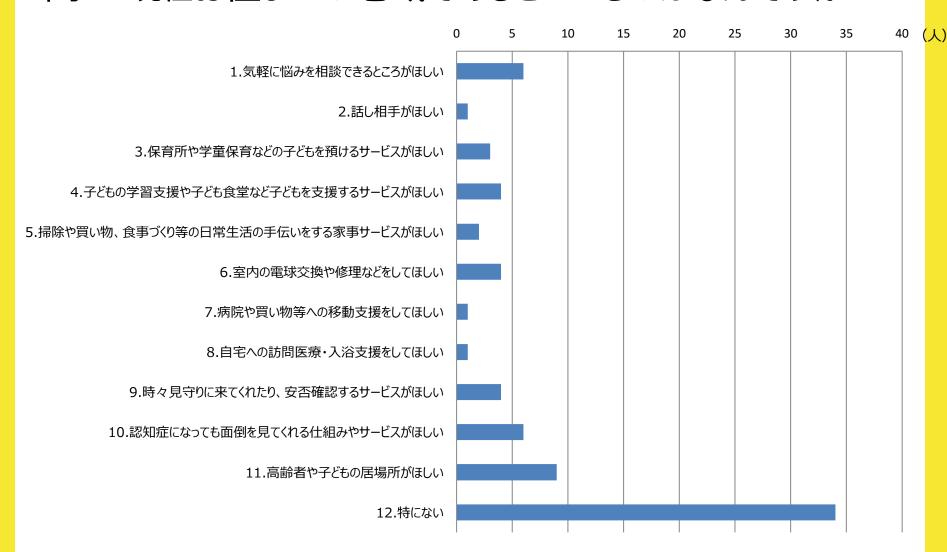
- ・家族が長く居りますから、毎年ムスコにワンコール、電話して安心してもらっています
- ・高齢者が多く安否が気になる

問5 よく利用している施設はありますか?



10.その他 ・散歩 運動

問6 現在お住まいの地域であるといいものはなんですか?



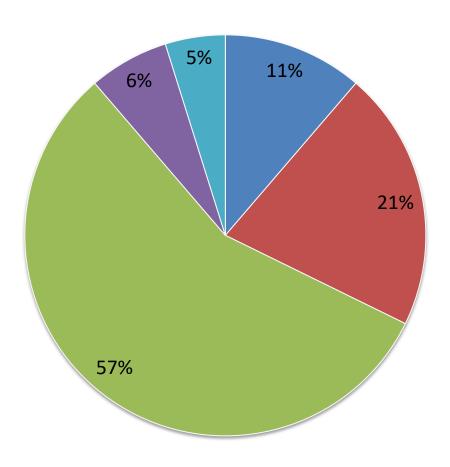
<u>13.その他(具体的に)</u>

・朝起き散歩グループ(自由参加)。コースは軽い道回りで住民の安否確認&コミュニケーションと健康の元に。

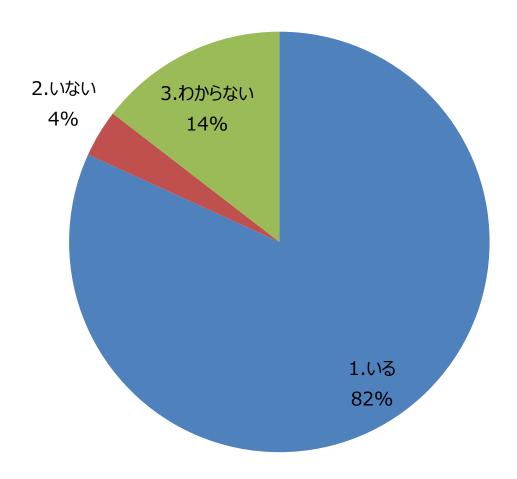
問7 近所の人とどの程度の付き合いがありますか?

- ■1.困りごとを相談し合える程度
- ■2.立ち話や世間話・情報交換をする程度
- ■3.顔を合わせた時にあいさつをする程度 ■4.近所づきあいはしていない

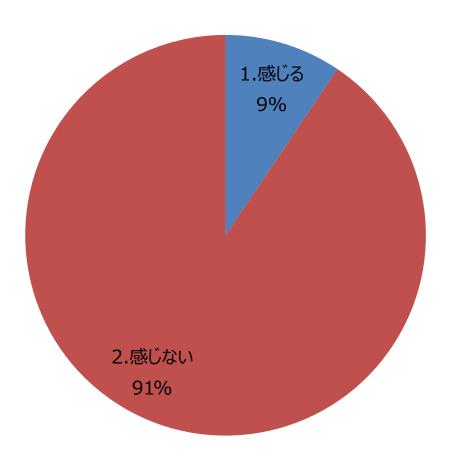
■5.近所づきあいに関心はない



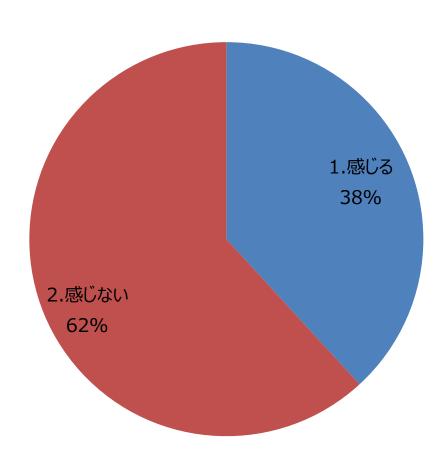
問8 もしもの時にかけつけてくれる人はいますか?



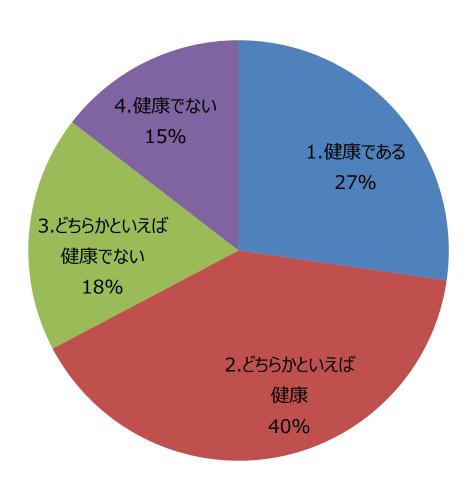
問9 普段、さびしいと感じることがありますか?



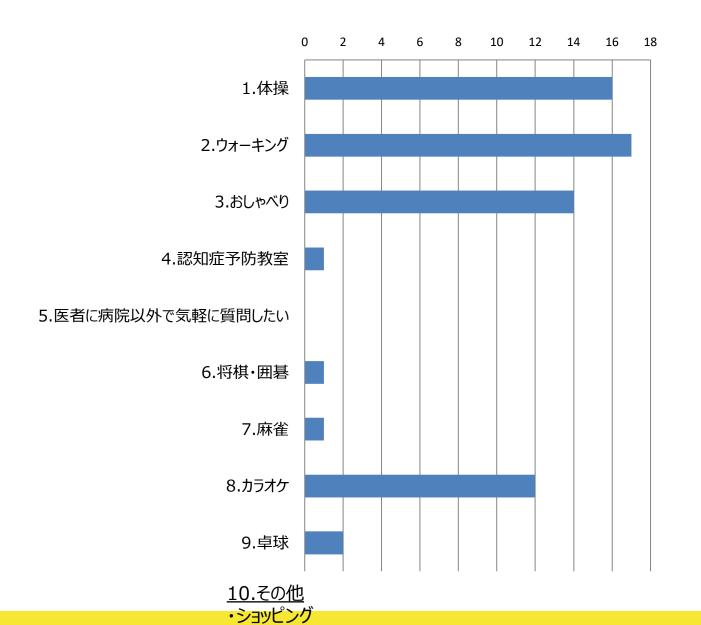
問10 孤独死(誰にも看取られずに亡くなること)を 身近な問題だと感じますか?



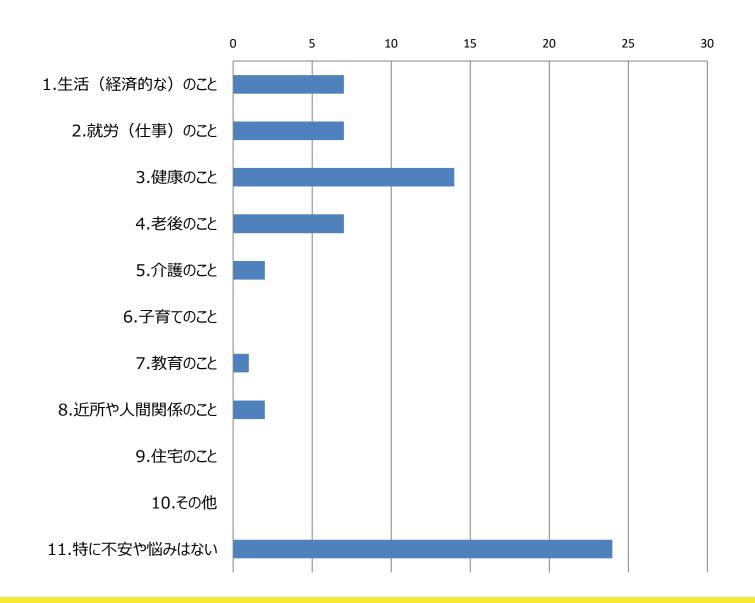
問11 日頃の健康状態はいかがですか?



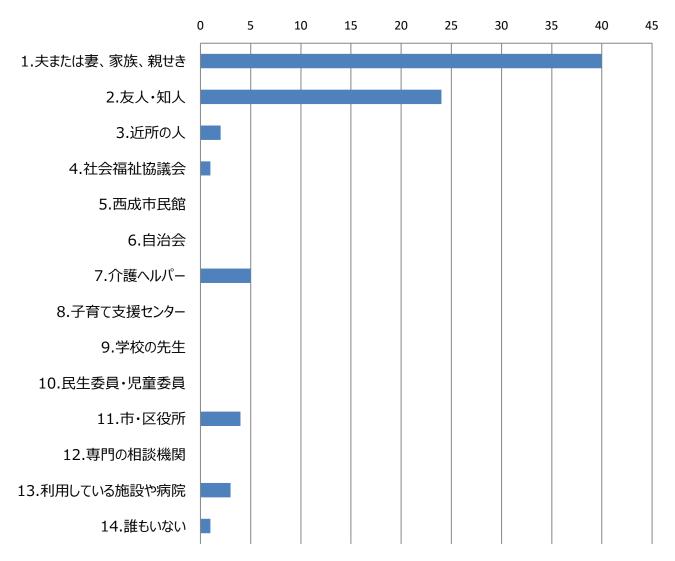
問12 健康のためにしてみたいことはありますか?



問13 現在、何か悩みや不安はありますか?



問14 悩みや困ったことがあった場合、誰に相談しますか?



15.その他

- ・住宅に認知症のような高齢の方がひとりで暮らしていて、エレベーターで座りこんでで動けず助けたことがあります。心配です。
- ・1Fで犬猫のフンが散見されています。住民の方がそうじをしてくれたところに出くわし「とても困っている」と言っていました
- ・元夫、ケア・マネージャ

問15 ご自身の「暮らし」をどのように感じておられますか。 困っていること、悩んでいること、充実していることなど、どのようなことでも いいですので、下記に自由にご記入ください。

- 自転車おき場がいっぱいで止められないときあり不便、きっちり管理してほしい
- 自治会費2000円にしたはどうですか?今の時代、毎月1800円では安すぎると思うのですが…
- 老後の生活の安心 健康の維持 健康とお金に困まらないです。
- コロナにかからないよう。健康と病気にならないよう残りの人生を無事にくらして生きたい
- 長年場あたり的な日雇暮らしをしてきたので、蓄えもなく、些か不安ではあるが、仕方がない。なるようにしかならないし、開き直って生きている。
- ウォーキングして健康なので特に困っている事はナシです。
- 心筋梗塞は薬で持って居ますが、耳なりは、耳鼻科の薬でも治らないので!!
- せっかく住宅もあたらしくなったので、お茶会や体そうの会、昔のフィルムを見る会などもあったらいいと思います。共有部分のそうじもしたいと思っているのですが、忙しくてなかなかできていません。みなさんと声かけあえる住宅であってほしいです。できることとして自分から声かけていこうと思います。
- 余り人の悪口はいわないで下さい。
- もうすこし地域ぜんたいで協力的になったり、住んでる人どうしが話しあいしたり困ったことがあれば相談窓口あればと思います。

令和4年 萩之茶屋北住宅2号館 「暮らしのアンケート」集計結果

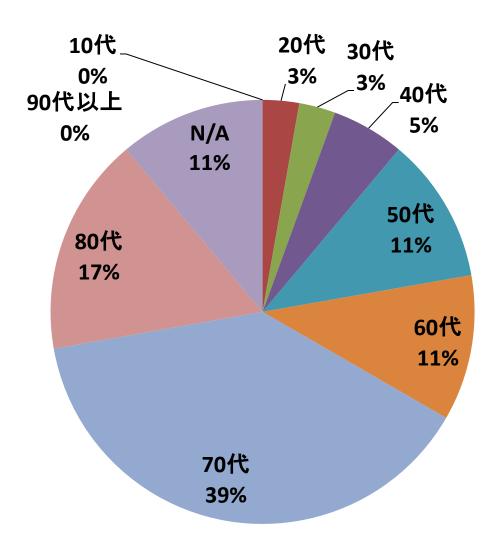
実施期間:2022年12月8日~12月20日

調査手法:アンケート調査(全18問)

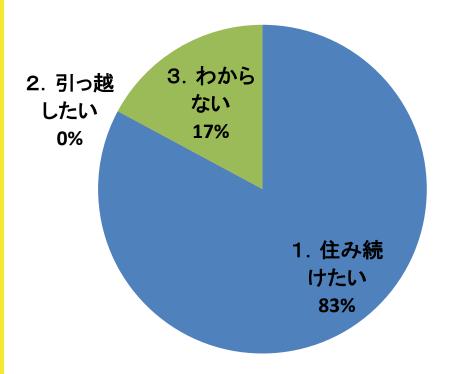
回答数:43世帯中、23世帯36人が回答

※18歳以上に配布

問1 あなたの年齢は?



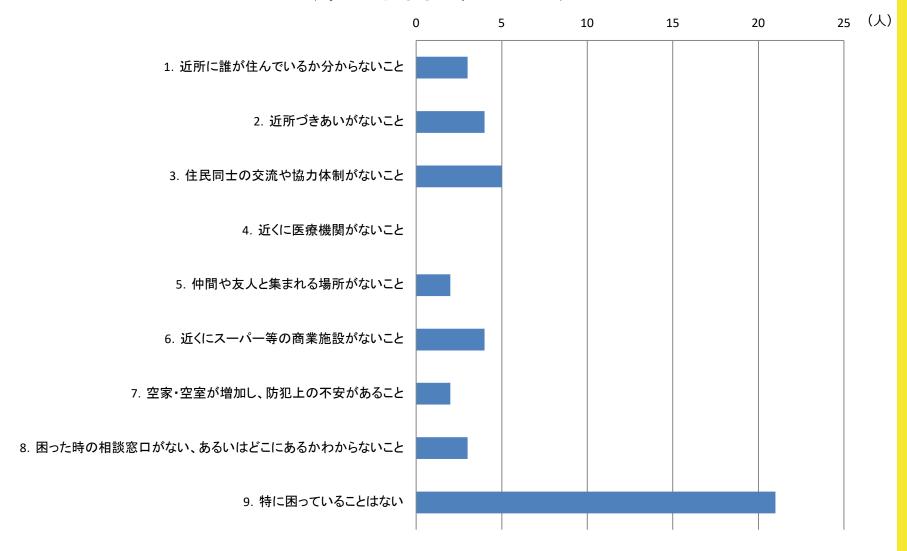
問2 現在のお住まいの地域に住み続けたいですか?



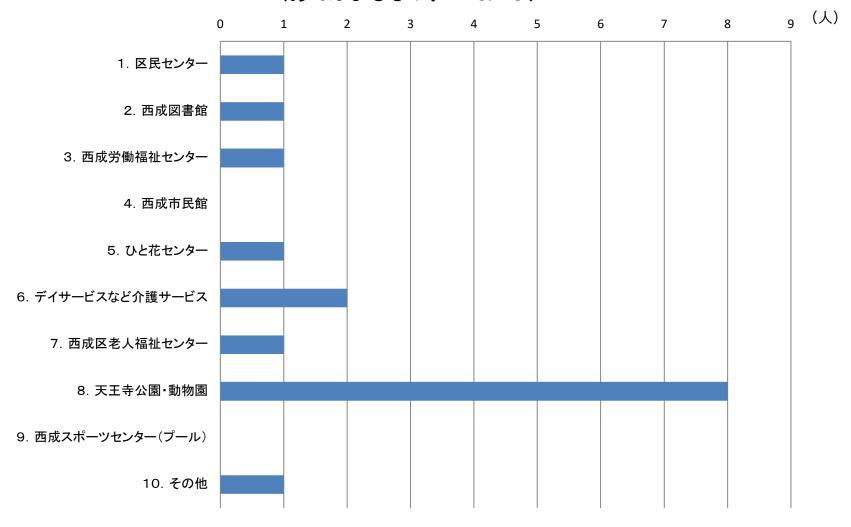
問3 問2の理由は何ですか?

- ・交通の便がよい 計10名
- ・買物に便利/何をするにも便利 計2名
- ・住みなれた土地/自分が育った地域計11名
- ・以下1名ずつ この街は興味ぶかい このままで暮していきたい 年だから動きたく無い 移動したく無い 散歩もしやすい 引っ越す理由がない きれいな部屋 日当りがいい 一人で住みたいから

問4 現在お住まいの地域での生活で困っていることはありますか? (あてはまるものすべてに〇)

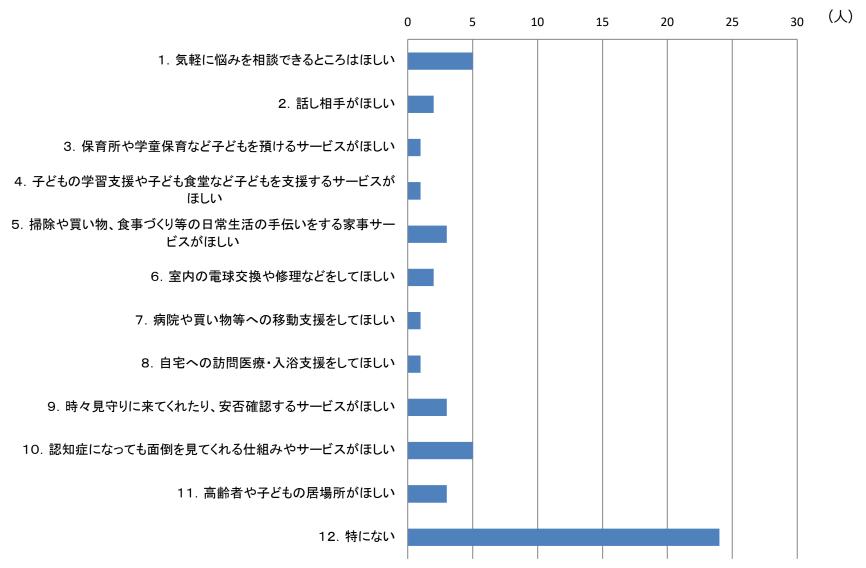


問5 よく利用している施設はありますか? (あてはまるものすべてに〇)



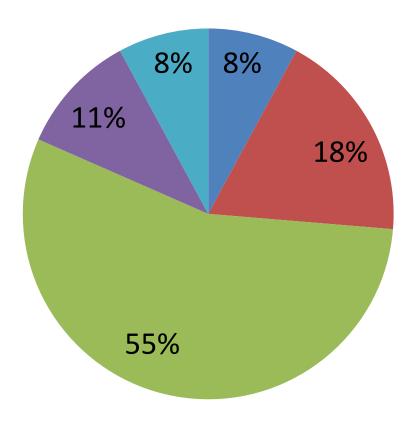
10.その他 ・集会所

問6 現在お住まいの地域であるといいものはなんですか? (あてはまるものすべてに〇)

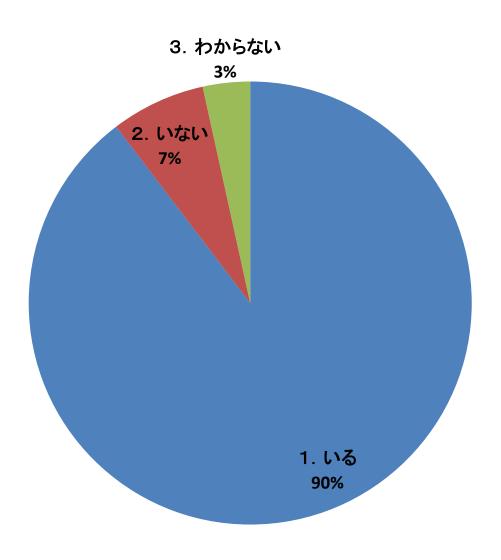


問7 近所の人とどの程度の付き合いがありますか?

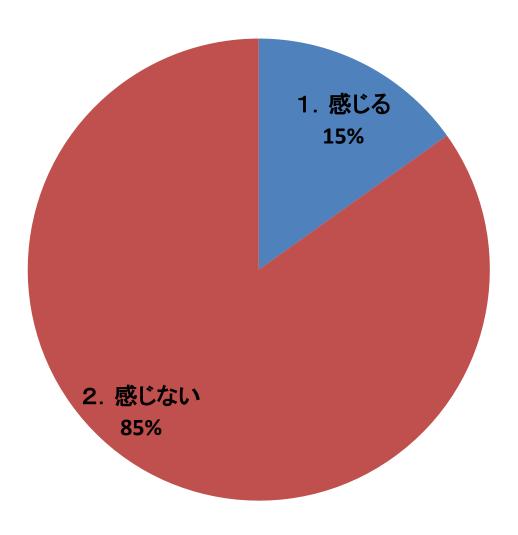
- 1. 困りごとを相談し合える程度 2. 立ち話や世間話・情報交換をする程度
- ■3. 顔を合わせた時にあいさつをする程度 ■4. 近所づきあいはしていない
- ■5. 近所づきあいに関心はない



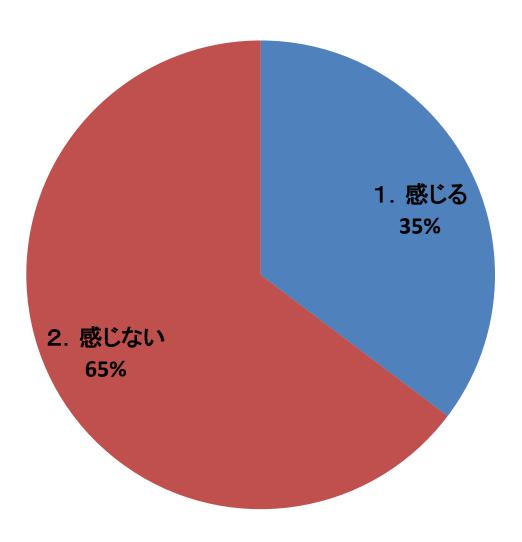
問8 もしもの時にかけつけてくれる人はいますか?



問9 普段、さびしいと感じることがありますか?

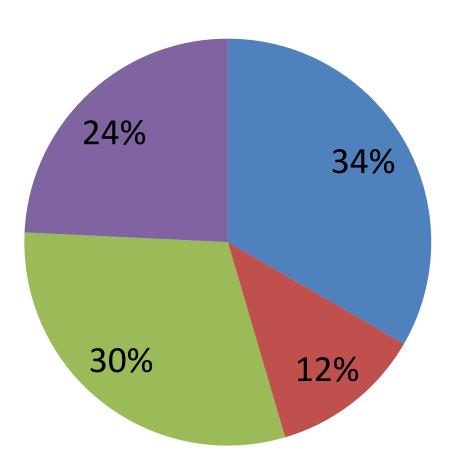


問10 孤独死を身近な問題だと感じますか?



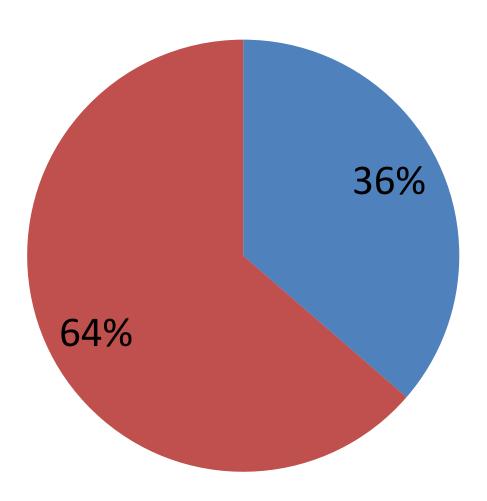
問11 日頃の健康状態はいかがですか?

- 1. 健康である
- ■2. どちらかといえば健康
- ■3. どちらかといえば健康でない ■4. 健康でない

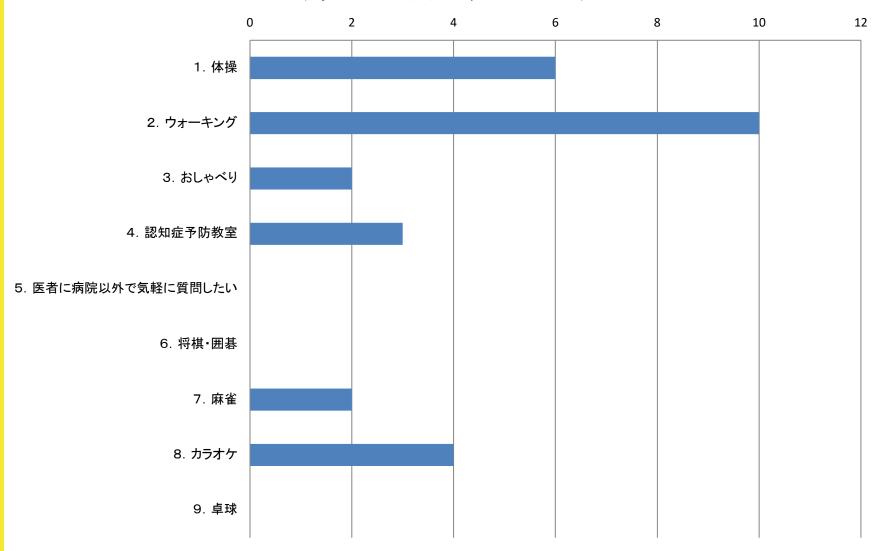


問12 健康のために自主的に運動に取り組んでいますか。

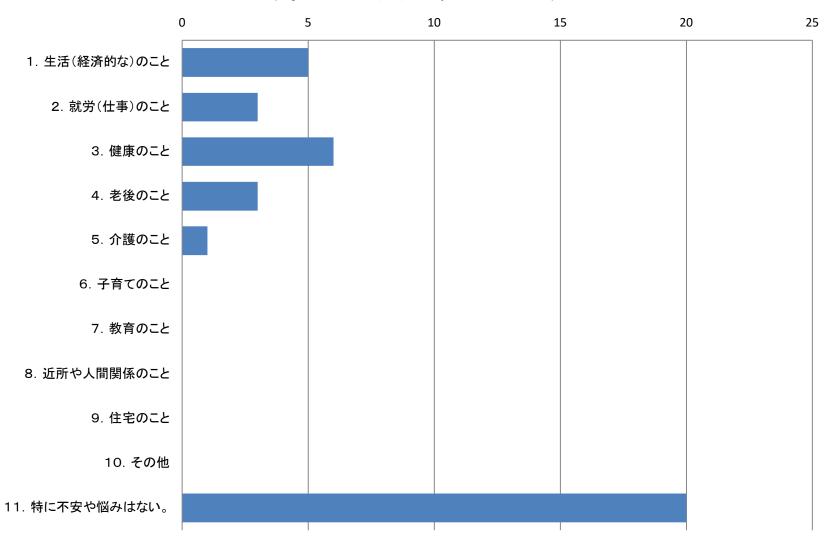
■ 1. 取り組んでいる ■ 2. 取り組んでいない



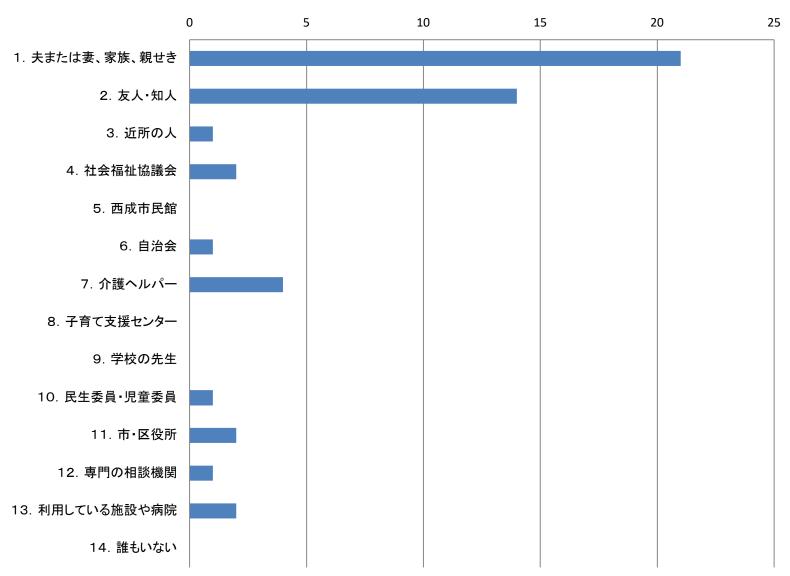
問13 健康のためにしてみたいことはありますか? (あてはまるものすべてにO)



問14 現在、何か悩みや不安はありますか? (あてはまるものすべてに〇)



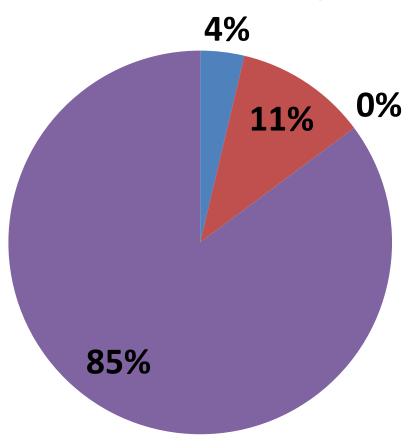
問15 悩みや困ったことがあった場合、誰に相談しますか? (あてはまるものすべてにO)



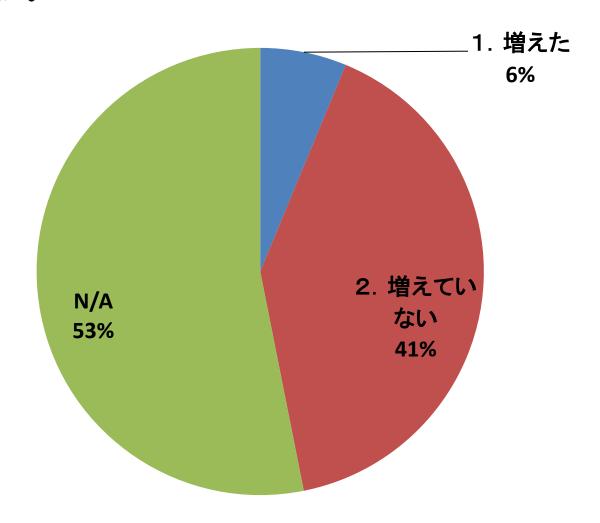
問16 月に1度、集会所で百歳体操が実施されていますが、そのことであなたの健康状態はよくなりましたか?

- 1. よくなった
- 3. 悪くなった

- ■2. 変わらない
- ■4. 百歳体操には行っていない



問17 月に1度、集会所で百歳体操が実施されていますが、そのことで近所の人や住民同士での交流は増えましたか。



問18 ご自身の「暮らし」をどのように感じておられますか。 困っていること、悩んでいること、充実していることなど、どのようなことでも いいですので、下記に自由にご記入ください。

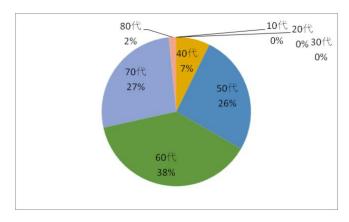
- 住民の方どうし、防災的なこととかの情報共有できるきかいがあるとよいなとおもいます。人間関係のわずらわしいのは、苦手だし、そこそこのよいキョリ感のつきあいができるとよいなとおもいます。
- 体を使う仕事も、ちょこちょことやっているので、健康維持にはなっていると思う。あとは、適度に山歩きやマージャン等で遊んで、百歳体操やお茶会などでも、やれたらいいかな。
- 毎日、家で体操、家事、2,3時間の散歩をして居ます。
- 別にありません。ありがとう御座居ます
- 近所に誰が住んでいるかわからない事が心配。前の第2住宅で暮らしてた人は皆高齢になり孤独死になりかねない。安否確認が重要だと思うし、せいそうにしても土曜日はいかがなものか?声がけもしないのはどうか?いつも決まっている人がしている!!
- ①自分なりに幸せに暮らせていると思っています。②住民の皆さんや近所の皆さんによくしていただいております。自治会長様へ・905号室の駐輪場や住宅敷地内での空き缶つぶしやめてほしい!廊下、エレベーター内、毎日毎日汁だらけ!いいかげんにしてほしい!犬も飼ってますけどいいんですか?・ゴミ置き場に1号館の住民がゴミ捨てに来てます。何人も見てます。監視カメラチェックして下さい
- エレベーターの扉が閉まったり開いたり繰り返している(2・3回ほど)1回で閉まる時もありますが各階ごとの点検をお願いしてほしい

シェルター (カード) システムの評価アンケート 結果

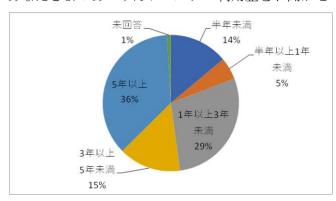
実施期間: 2022年11月29日~2022年12月4日

回答率:82% (153 名中 123 名回答)

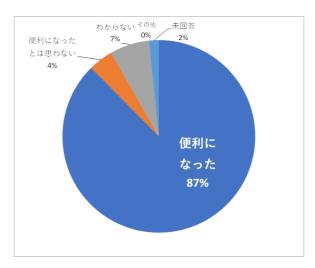
問1 あなたさまの年代をお聞かせください。



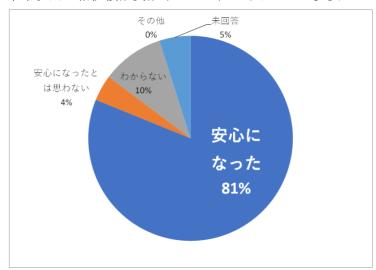
間2 あなたさまのあいりんシェルター利用歴をお聞かせください。



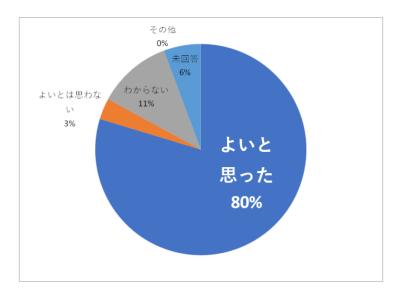
問3 システム導入後はベッド券をもらいに長い列を並ばなくてよくなりました。そのこと について便利になったと思われますか。



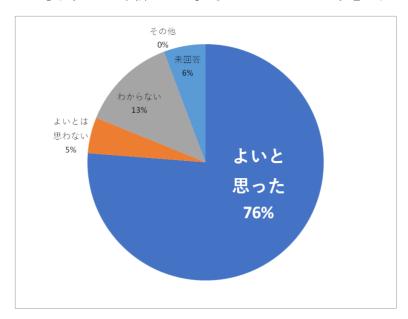
問4 システムではみなさんがより安心してシェルターを利用いただけますように、結核検診の受信状況を把握し必要な方に受信を呼び掛けています。結果利用者のみなさまの 半年以内の結核検診受診率は100%になりました。安心になったと思われますか。



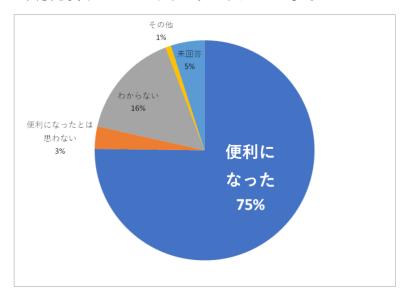
問5 システムではみなさまが日々寝泊まりされたベッド番号を記録しています。そのことにより新型コロナウイルスの感染者が発生した際には、濃厚接触者の有無等の判断を行うのに役に立ち、他のシェルター利用者の濃厚接触者の認定を極力抑え、シェルター利用制限を最低限にとどめることが出来ました。そのことについてどう思われますか?



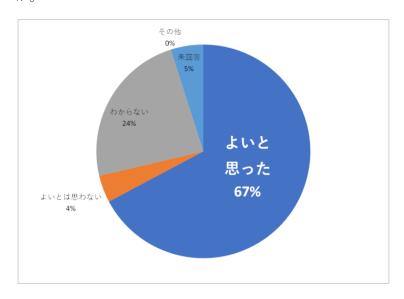
問6 システムでは、希望されるみなさんが新型コロナウイするワクチンを円滑に摂取できるように接種の希望や接種履歴を記録し、その結果希望者には円滑にワクチンに接種してもらうことが出来ました。そのことについてどう思われますか。



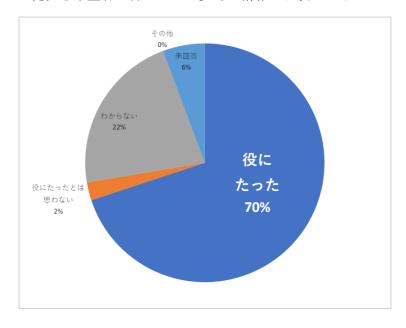
問7 システム導入後は越年時の大阪市の面接において、カード番号を活用し面接日時を設定するなどみなさまの利便性を高めるように工夫しました。その結果、以前より円滑に面接を受けていただけるようになりました。そのことについてどう思われますか?



問8 システムを使い簡易なお仕事の求人や技能講習会、企業に来てもらっての求人説明会 のご案内を、仕事情報の提供を希望される方に行っています。そのシステムでの案内 をきっかけに仕事が決まった方も複数人出ました。そのことについてどう思われます か。



問9 システムを使い新型コロナウイルスのワクチン接種説明会や、衣類だし等の生活情報 の提供を希望者に行いました。その情報はお役に立ちましたでしょうか?



問10 その他、システムについてこんなことが出来たらよいな等、ご意見がございましたら お書きください。

現金仕事などの情報があれば案内してほしい。

今がよいと思った

充分です。ご苦労様です。

思いつかない

システムとは関係無いですが居場所でアゴマスクやマスク無しの人が多すぎるのが気になる (スタッフもふくめて)

ありがとう

できればたきだしの有無・時間を朝の早い時間に提示しておいてほしい

イベント開催に於いて、従事者間等の連絡を密にしてはいかがでしょうか

なし

ベッド変更の抽選が月1回から2回になって助かった。できれば週1回変更してほしい。近くに、においのきつい人とかいびき、寝言、わめく人などがいた場合2週間がまんするのは、かなりつらいからです。システムのこととは関係ないことかも知りませんが、一応書かせてもらいました。

結核検診日の受診がすむまで毎日の呼び掛けが、うるさい

よい

なし

◎シェルターの抽選は月1回でも良いのではないかと思います。

ご意見は、特に、ございません。

タイへ良い

特になし

ベッド替えで固定している人が何人もいる。月2回のハズが今年1回も変わっていない人もいる。平等にやってほしい。

安心してとまれるからよし

わからない

特にナシ

wifi 直せ

以前ゲートの検温で顔を近づけないとなかなか数値が出てこないことがたたありました。今 の検温はその点便利になったと思います。

別になし……※シェルタの係員のみなさんが良く働いておられる姿を見ると元気をもらいます(ありがとう)

ついに! 2階リノベ完成オープン

東田ろーじ オープン記念 こけら落とし企画

2023年3月13 (月) ~ 16日 (木)

会場:東田ろ一じ(西成区太子1-13-14)

3月13日(月)

15:00~17:00

おしゃべり会 ヴィヴィアン佐藤 × ロージモンズ

新宿2丁目からドラァ グクィーンのヴィヴ ィアン佐藤さんが来 釜!テーマは都市、 頭上建築、表現etc.

3月15日(水)

16:00~18:00

おしゃべり会 だれもが寄れる場 ってどんなとこ?

• • • • • • • • • • • • • • • • •

1Fは古着屋(予定)、 2Fはどんな場所にする?みんなで集まって 話し合いましょう。 進行役:ロージモンズ

3月16日(木)

14:00~16:00

ワークショップ マイクロアグレッ

ションを知ろう

あなたがふと口にし たそのことば、大丈 夫?近年関心が高ま っている概念です。 講師:ほんまなほさん

認定NPO法人釜ヶ崎支援機構 連絡先:rohji4u@gmail.com





定員8名

要申込